

飯能市郷土館館報

# 郷土館のプロフィール

*Profile 2014*

活動報告書

第12号

平成26年度



飯能市郷土館

## あいさつ

飯能市郷土館館報「郷土館のプロフィール」第12号をお届けします。

当館の館報は平成9年3月の創刊で、当初は複数年度を1冊にまとめ、3年に1度、刊行していました。平成21年度刊行の第6号以降は、毎年発行することとし、現在に至っております。

この館報の発行は、当館の活動について内容を報告するだけでなく、事業評価を盛り込みながら記録としてまとめ、今後の運営に資することも目的の一つとしています。

本書は、平成26年度の事業の結果をまとめました。平成26年は4月に開館25周年を迎えており、当館にとっては節目の年度です。また、それだけでなく、飯能市と名栗村が合併してから10年目を迎える、記念すべき年でもありました。本書の9ページから取り上げましたが、名栗くらしの展示室の開設は、合併10周年記念事業です。

他の事業では、市民学芸員養成講座（Ⅶ・Ⅷ期）が、平成12年1月に第Ⅰ期を養成してから15年目の養成となりました。市民学芸員はこの間に活躍の場を広げており、平成22年度に養成された第Ⅵ期市民学芸員は「古文書整理型」、第Ⅷ期市民学芸員は「麦作文化探求型」です。「古文書整理型」は当館収蔵の古文書の整理・翻刻作業を通して、「麦作文化探求型」は飯能市域で盛んに行われていた麦作りを実際に行ない、地域への理解を深めてもらっています。

こうしてみると本書は、節目の年、記念の年を迎えた当館の記録であり、開館から四半世紀となる館が、諸事業・諸活動をいかに有意義なものとしていくか、試行錯誤する様子を綴ったものとも言えましょう。

平成26年5月11日、開館25周年の記念すべき年に当館は70万人目の入館者を迎えました。大変嬉しいことです。当館のように小規模な博物館では、四半世紀もたつと入館者が減少していくことが多いのですが、当館では毎年2万8千人前後を保っています。特にここ数年は、飯能戦争、山岳信仰、飯能市の災害など市民のニーズにあった特別展を開催し好評を得ています。

これからも、市民の期待に応えられるような展示や学習会などを企画するとともに、「地域の情報センター」として、市民にたよりにされる郷土館を目指していきたいと思えます。今後とも多くの市民の皆さまのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成28年3月

飯能市郷土館  
館長 柳戸信吾

# 目 次

---

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

---

## 第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設等修繕	7
常設展示	8
名栗くらしの展示室	9

---

## 第2章 事業

平成26年度の事業	12
展示	
（収蔵品展・特別展）	13
（その他の展示）	19
講座・学習会	23
交流	26
博学連携	33
資料・施設の利用	37
レファレンスの対応	42
講師派遣	43
収集	44
整理・保存	46
調査・研究	50
刊行物・情報発信	52
事業支援	54
郷土館協議会	55
博物館実習	56

---

## 第3章 各種データ

利用者数	58
歳出予算	59
図書資料寄贈機関	60
飯能市郷土館条例・施行規則	62

職員	65
利用案内	66

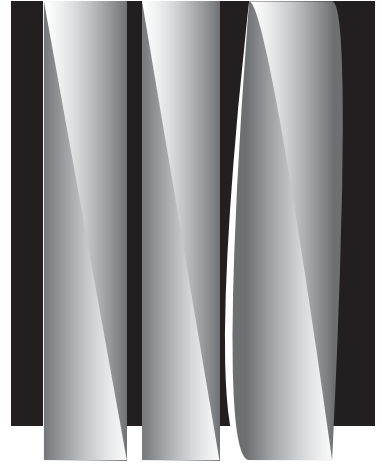
---

表紙:「飯能市郷土館」ペン・水彩 1990年 小島喜八郎画

## 沿 革

- 昭和46年3月 「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄付された1千200万円が予算化される。
- 昭和50年4月 飯能市総合振興計画の基本構想に郷土館建設がうたわれる。
- 昭和61年3月 (株)丸広百貨店より寄付された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
- 昭和61年6月 飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
- 昭和62年3月 飯能市文化財保護審議委員会から基本構想・基本計画が答申される。
- 昭和62年7月 (株)平安設計による建築設計を開始する。
- 昭和62年10月 (株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
- 昭和63年3月 市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
- 平成元年4月 社会教育課内に郷土館準備係(係長1・係員1)が配置される。
- 平成元年6月 (株)タイムアートデザインによる展示工事に着手する。
- 平成元年12月 飯能市郷土館条例が制定される。
- 平成2年4月 飯能市郷土館友の会が結成される。
- 平成2年4月 飯能市郷土館が開館する。(常勤職員は館長、学芸員1、主事補1)**
- 平成2年4月 開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物ー思い出に残る品々ー」開催。
- 平成2年8月 特別展「戦時中の暮らし」開催。(以後10月・2月にも特別展を開催し、1年で特別展を4回開催)
- 平成2年8月 夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年実施)
- 平成2年11月 古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され、現在も自主活動を続ける。
- 平成3年4月 特別展「能仁寺と黒田氏」開催。(10月にも特別展を開催し、以後平成10年秋まで春・秋の年2回の特別展開催となる)
- 平成3年7月 友の会主催による郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
- 平成4年8月 埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ! 古代からのメッセージ I」を開催。(生涯学習課と共催で平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
- 平成4年10月 特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。(平成14年秋の「うちおり」展まで)
- 平成5年1月 友の会主催による「まゆ玉づくり」開催、以後平成22年1月まで毎年実施(それ以後は館主催事業)
- 平成5年6月 開館以来の入館者数が10万人を突破。
- 平成6年3月 『飯能の昭和史年表』発行。
- 平成6年4月 開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で初めて特別展の図録をつくる。
- 平成6年10月 特別展「ジャパン・マイセンー瀬戸の磁器人形ー」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展を除く)
- 平成7年7月 常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
- 平成8年5月 開館以来の入館者数が20万人を突破。
- 平成8年8月 常設展示等企画委員会が発足し、当館の改善点すべき点をまとめる。(任期は平成10年3月まで)
- 平成8年10月 特別展「飯能の刀匠ー小沢正壽を中心としてー」開催。会期中に展示図録が完売する。
- 平成9年3月 『飯能市郷土館館報』第1号発行。
- 平成10年8月 恒例の「夏休み子ども歴史教室」を「夏休み親子歴史教室」と改称して実施。
- 平成10年9月 「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年実施)

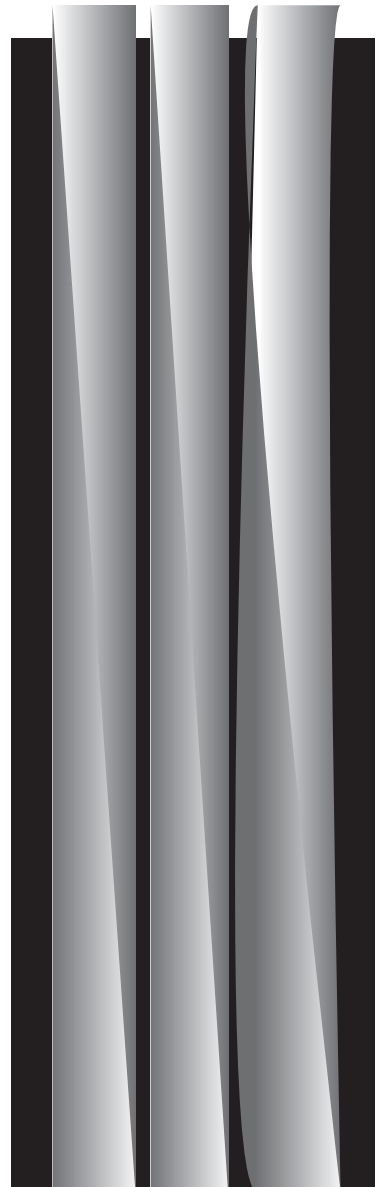
平成10年11月	市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
平成10年12月	開館以来の入館者数が30万人を突破。
平成11年3月	収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展、秋に特別展という枠組になる)
平成12年1月	第I期市民学芸員養成講座開始。
<b>平成12年3月</b>	<b>博物館法に基づく登録博物館となる。</b>
平成13年2月	第II期市民学芸員養成講座を実施。
平成13年3月	『研究紀要』第1号発行。
平成13年5月	「郷土館だより」創刊号発行。
平成13年9月	これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。
平成13年10月	特別展「黎明のとき 一飯能焼・原窯からの発信」開催。この特別展より夜間開館を実施する。
平成14年10月	当館ホームページをインターネット上で公開し始める。
平成15年3月	『収蔵資料目録1 写真資料目録その1』発行。
平成15年7月	市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15年8月	開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成16年2月	第III期市民学芸員養成講座実施。
平成16年10月	入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 一その流域の今昔」開催。
平成17年1月	名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。
平成17年1月	常勤職員が5人(館長1、学芸員2、主査2)となる。
<b>平成19年3月</b>	<b>当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。</b>
平成19年4月	常勤職員5人のうち、館長以外の職員すべてが学芸員有資格者となる。
平成19年4月	開館以来の入館者が50万人を突破する。
平成19年4月	第IV期市民学芸員養成講座実施。
平成19年6月	市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、平成23年まで7回開催)
平成20年3月	『名栗の民俗(下)』、『名栗の歴史(上)』を刊行。
平成20年4月	常勤職員が4人(館長、学芸員3)となる。
平成22年3月	『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
平成22年5月	第V期・VI期市民学芸員養成講座実施。
平成22年10月	飯能市埋蔵文化財保護行政30周年記念特別展「大地に刻まれた飯能の歴史 一30年の発掘調査成果から」開催。
平成22年11月	開館以来の入館者数が60万人を突破する。
平成23年4月	飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会を設置し、旧名栗村で収集した民俗資料の保存・活用について検討を始める。(平成25年3月まで)
平成23年10月	特別展飯能戦争「飯能炎上―明治維新・激動の6日間―」開催。会期中に展示図録が完売し、300部増刷する。(当館発行の刊行物の増刷は初めて)
平成24年4月	当館館長に初めて学芸員有資格者が就任する。
平成24年6月	史料集活用講座「地域を学ぶ・調べる・歩く」実施。(全3回)
平成25年10月	収蔵絵画のうち216点を精明小学校内絵画保管室に移す。(計342点を同室で保管)
平成26年5月	開館以来の入館者数が70万人を突破する。
平成26年5月	第VII・VIII期市民学芸員養成講座実施。
平成26年10月	歴史公文書の保管について、業者に委託していたが、旧図書館地下書庫での保存に変更する。



# 第 1 章

..... Chapter 1 .....

## 【 施 設 】



# 建物平面図

## 〈1階〉

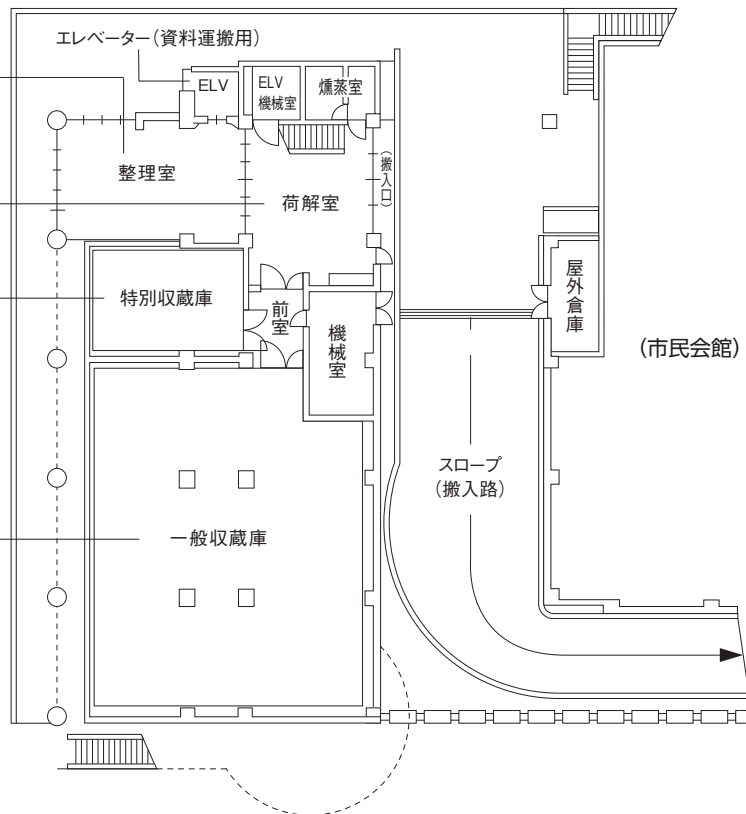
収蔵資料の台帳やカードを作成しその情報を整理する部屋。

搬入された資料の梱包を解く部屋。年1回行われる資料の被覆燻蒸もここで行われる。

古文書・典籍など約45,000点のほか、貴重な資料が保管されている。

民具約5,700点、絵画などを収蔵している。

（飯能河原）



## 〈2階〉

※(R階)階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

(駐車場)

主に資料の調査・研究を行う部屋。近隣市町村で刊行した図書類もある。

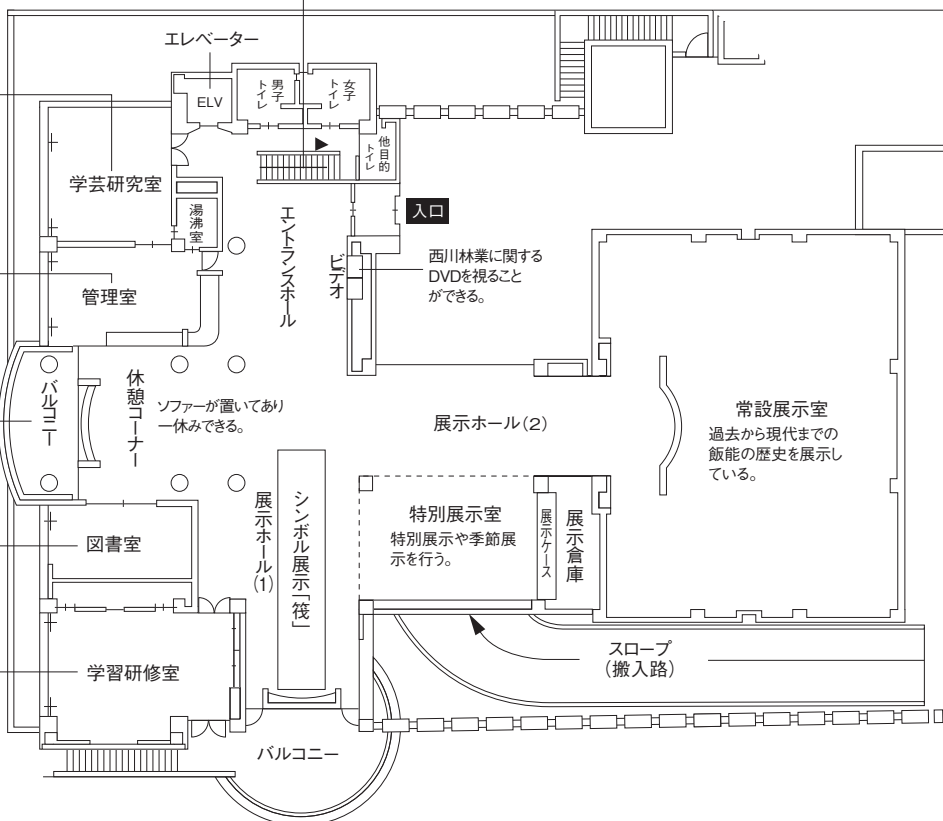
職員がいる部屋。館内の照明や空調などの管理及び刊行物の販売、来館者の質問や電話によるレファレンスに対応する。

ここからの眺めは最高!飯能河原が一望できる。

飯能の歴史や文化、博物館に関する図書が配架されている。

講座や学習会を実施するほか、市民学芸員の会合などを行う。

（飯能河原）



## 面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：m<sup>2</sup>)

室名	面積	室名	面積
<b>1 階</b>	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
		エレベーター	7.500
<b>2 階</b>	959.774	<b>R 階</b>	40.040
常設展示室	273.965	階段	15.846
特別展示室	59.850	階段ホール	15.944
展示倉庫	20.675	エレベーター	8.250
展示ホール (1)	139.750		
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131		
		合 計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積 (m <sup>2</sup> )	割合 (%)
教 育 普 及	展示 (常設展示室・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他 (学習研修室)	62.779	4.2
収 集 ・ 保 存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調 査 ・ 研 究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.72	25.2

敷地面積 3,626.12 m<sup>2</sup>      建築面積 1,165.999 m<sup>2</sup>

## 施設等修繕

- ・名栗民俗資料保管庫 窓ガラス修繕 (4月)
- ・郷土館内不良照明器具修繕 110W蛍光灯(シンボル展示「筏」左側列最奥)の安定器交換 (5月)
- ・浄化槽ブローワー修繕 (7月)
- ・学習研修室移動テーブル修繕 (10・11月)
- ・郷土館整理室ブラインド修繕 (2・3月)
- ・郷土館キュービクル式高圧受電設備外箱塗装修繕・外階段手摺塗装修繕 (3月)
- ・空調機加湿用タンクへの給水管 (ボールタップ) 取り替え (3月)
- ・地下排水ピット内の水中ポンプの分解・清掃 (3月)



## 常設展示

常設展示には、展示ホール(1)のシンボル展示「筏」と、常設展示室の展示がある。

常設展示室は、下図のように地形模型を中心に9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。

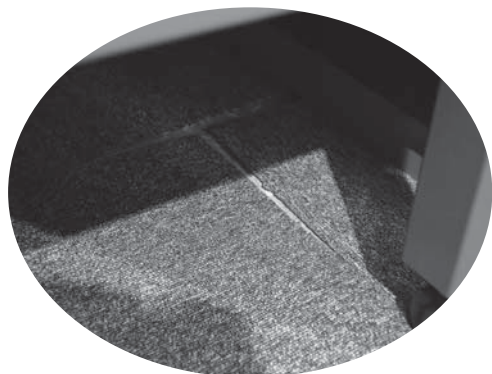
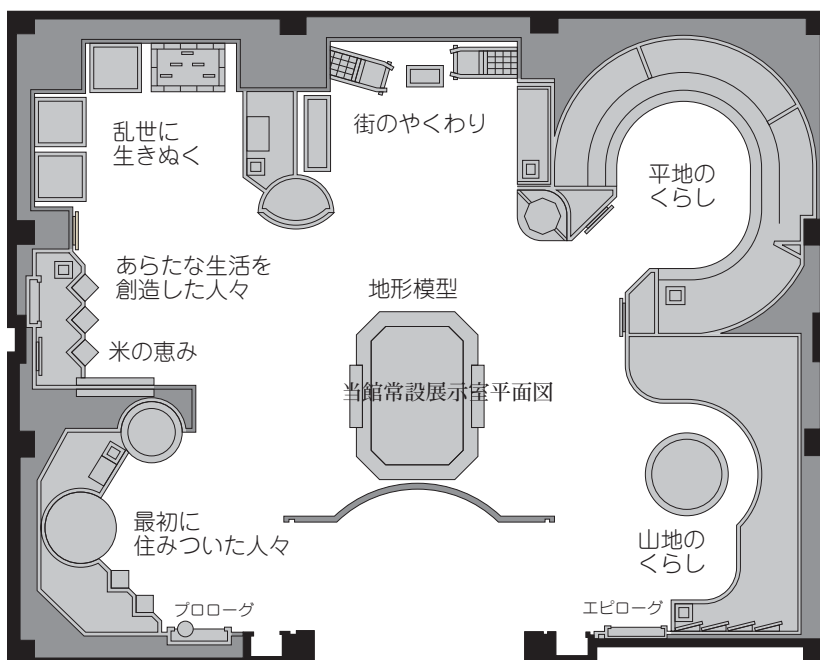
展示構成を検討した際の留意点については、当館館報第2号に掲載したのでそれを参照していただきたいが、特徴としては露出展示が多いことと、各コーナー全体の解説パネルが、その時代に生きた人からの「語り」になっている点にある。

なお、常設展示の展示替えについては、平成8・9年度に学識経験者による常設展示等企画委員会を立ち上げ、開館10周年にあたる平成11年度の実施を目指して運営も含めた検討を行ったことがあった。この委員会からは報告書が出されたが、財政難などの理由からそれを実現することができず現在に至っている。また、平成17年1月に旧名栗村と合併したにも関わらず、平成21年度に完結した名栗村史編さん事業の成果が活かされていない点が、大きな課題として挙げられる。

設備の面では、以下の問題が指摘できる。

- ・床面のタイル敷カーペットの剥離(大型の展示ケースを移動する際に、その重量により剥離、ずれてしまう)
- ・コルトン(内側から蛍光灯で照らしたパネル)の退色
- ・展示台表面のクロスの汚れ
- ・地形模型にて頻発するスイッチの故障と表面のひび割れ
- ・縄文人の顔面部皮膚の剥落と、左手親指部の破損

前年度同様、平成26年度においても、常設展示資料の変更は行なわなかった。



床面のタイル敷カーペットの剥離

# 名栗くらしの展示室

## 1 経緯

名栗村では飯能市と合併する以前の昭和57年度から58年度にかけて村内の民具を収集し、旧名栗庁舎に展示していた。平成17年の飯能市との合併後、これらの民具は当館が管理することとなったが、旧名栗庁舎では保存環境が悪く、このまま放置すると資料が痛むため、その保存と活用について早急に対処する必要があった。

平成22年度には民具を再整理し、目録を作成、破損が著しく展示・活用に耐えられない資料以外を、西川広域森林組合より寄付された隣接する旧名栗村森林組合事務所の建物に移動した。また、整理の結果、これらは名栗地域の生業や高度経済成長期以前の生活様式を伝え、環境と暮らしの共存を知ることのできる貴重な資料群であることがわかった。

しかし、資料を展示するなどの活用場所がなかなか見つからず、平成23年度には名栗地域内の有識者等からなる「飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会」を立ち上げ、協議を重ねてきた。この結果、名栗地区行政センターの2階のロビーと元名栗村史編さん事務室の一部を改装して展示をすることとし、平成25年度から工事や展示作業をすすめて、平成26年度に正式オープンする運びとなった。

## 2 オープニングセレモニー

オープニングセレモニーは平成26年6月22日に合併10周年記念事業として名栗地区行政センターで開催した。

式典会場は3階の集会室である。式典に先立ち、午前10時から名栗小学校の児童による「なぐり元気太鼓」が披露された。続いて、埼玉県無形民俗文化財に指定されている下名栗の獅子舞が下名栗諏訪神社獅子舞保存会により演じられた。立ち見のお客がでるほどの超満員の中、迫力ある舞を演じてくれた。

開室式典は多くの方にご臨席いただき午前11時30分から始まった。主催者として齋藤新太郎名栗地区活性化検討会会長、大久保勝飯能市長



オープニングセレモニーで披露された下名栗の獅子舞

があいさつを述べた後、内田健次飯能市議会副議長、有馬壽雄飯能市名栗民俗資料室資料保存活用検討委員会会長より祝辞をいただいた。最後に当館館長の柳戸より名栗くらしの展示室の説明を行った。式典終了後は、参加者に飯能名物はんじょう鍋とじゃがいもがふるまわれた。

式典会場以外の会議室や工作室では様々な体験メニューを用意した。ベーゴマ体験とぶんぶんコマ作り、飯能市のキャラクターである夢馬(むーま)を製作する木工教室、高機を用いた機織り体験、石臼体験と麦こがし作り、足踏み脱穀機、千歯扱き、唐箕を利用した麦の脱穀体験である。また、くらしの展示室の展示資料についての説明も行った。

お祭り気分を盛り上げてくれたのは、焼きそば、かき氷、焼きマシュマロなどの食べ物のふるまいである。これらは地元の方々が提供して下さった。最後におみやげとして地元名物の「名栗まんじゅう」を配布した。

当日はあいにくの雨天にもかかわらず、約500人もの来場者で大盛況だった。準備、運営には多くの市職員のほか、当館の市民学芸員、名栗地区の方々に携わっていただいた。新しくオープンした名栗くらしの展示室を地域の方々と盛り上げていくとともに、多くの方に知っていた

だくには絶好の機会となった。

### 3 体験学習会の開催

名栗くらしの展示室は、展示を見るだけではなく、昔の道具を使用した体験を通して過去の生活を学べることを目指している。このため、平成26年度は地元の小中学生を対象に2つの体験学習会を開催した。

#### ◎展示見学と機織り体験

オープンに先立つ5月23日、名栗小・中学校の児童・生徒を対象に機織り体験と展示の見学会を実施した。午前中は名栗小学校3年生8人、午後には名栗中学校全生徒50人が参加した。

展示の解説は柳戸が行い、機織り体験指導は展示する高機の整備をお願いしていた宮本八恵子氏(日本民具学会理事)と大森美恵氏(入間市博物館野田双子織研究会会員)に依頼した。

#### ◎むかしのおかし

「麦こし」をつくってみよう！

名栗公民館と共催で、平成27年3月27日(金)午前9時30分から11時30分を実施した。参加者は14人(子ども10人、大人4人)である。

最初に麦や昔の麦作りについて説明した後、名栗くらしの展示室を見学し、かつて実際に使われていた本物の道具を見ながら学習した。体

験では、大麦を炒り、石臼で挽いて、挽いた粉をふるいにかけて、砂糖と水またはお湯を加えて練って味わった。

勉強して、見学して、体験してと麦づくしで盛りだくさんの半日となり、麦こがしの味も、素朴でやさしい甘さが好評だった。

### 4 見学者への説明

名栗くらしの展示室は月曜日から金曜日まで自由に見学できるが、団体等で説明の要請があった場合は可能な限り対応している。平成26年度は別表のとおり、9件の説明依頼があり、これに対応した。

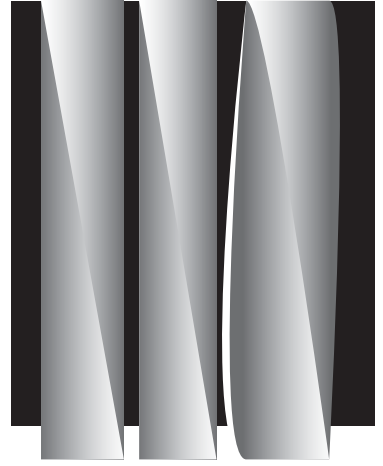


展示物の説明風景

#### ○名栗くらしの展示室説明実績一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	対象者	人数	担当学芸員
1	6/25(水)	13:30~15:30	「飯能の"みんなよう"」保存会	「"みんなよう"でちょっと昔の名栗にタイムスリップ」参加者	80	柳戸
2	7/13(日)	10:00~14:30	活動市民の会	エコツアー「民具が語る昔暮らし・名栗の機織り体験と打ち入れづくり」参加者	7	柳戸
3	9/25(日)	13:10~13:40	飯能市自治会連合会 飯能支部	飯能市自治会連合会飯能支部役員	21	尾崎
4	9/28(日)	14:30~15:10	観光・エコツーリズム 推進課	エコツアー「名栗の秋・名所ぶらり旅」参加者	15	柳戸
5	10/22(水)	12:30~13:00	飯能市自治会連合会 富士見支部	飯能市自治会連合会富士見支部役員	15	柳戸
6	11/12(水)	9:00~9:30	飯能市自治会連合会 南高麗支部	飯能市自治会連合会南高麗支部役員	10	村上
7	2/4(水)	14:15~15:40	名栗小学校	名栗小学校3・4年生	13	柳戸・村上
8	2/24(火)	15:45~16:30	教育センター	市教育研究会	50	柳戸
9	3/15(日)	10:00~11:00	名栗公民館	相模原公民館視察	27	柳戸

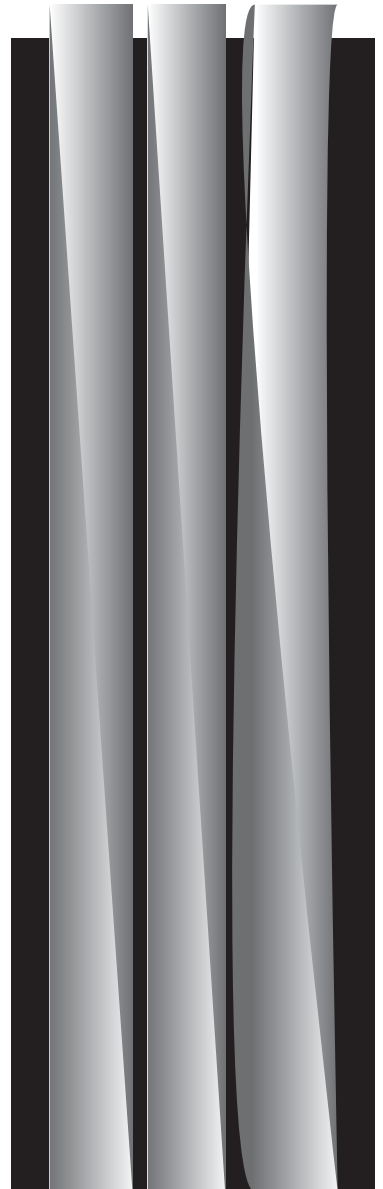
合計のべ人数 238人



## 第 2 章

…… Chapter 2 ……

## 【 事 業 】

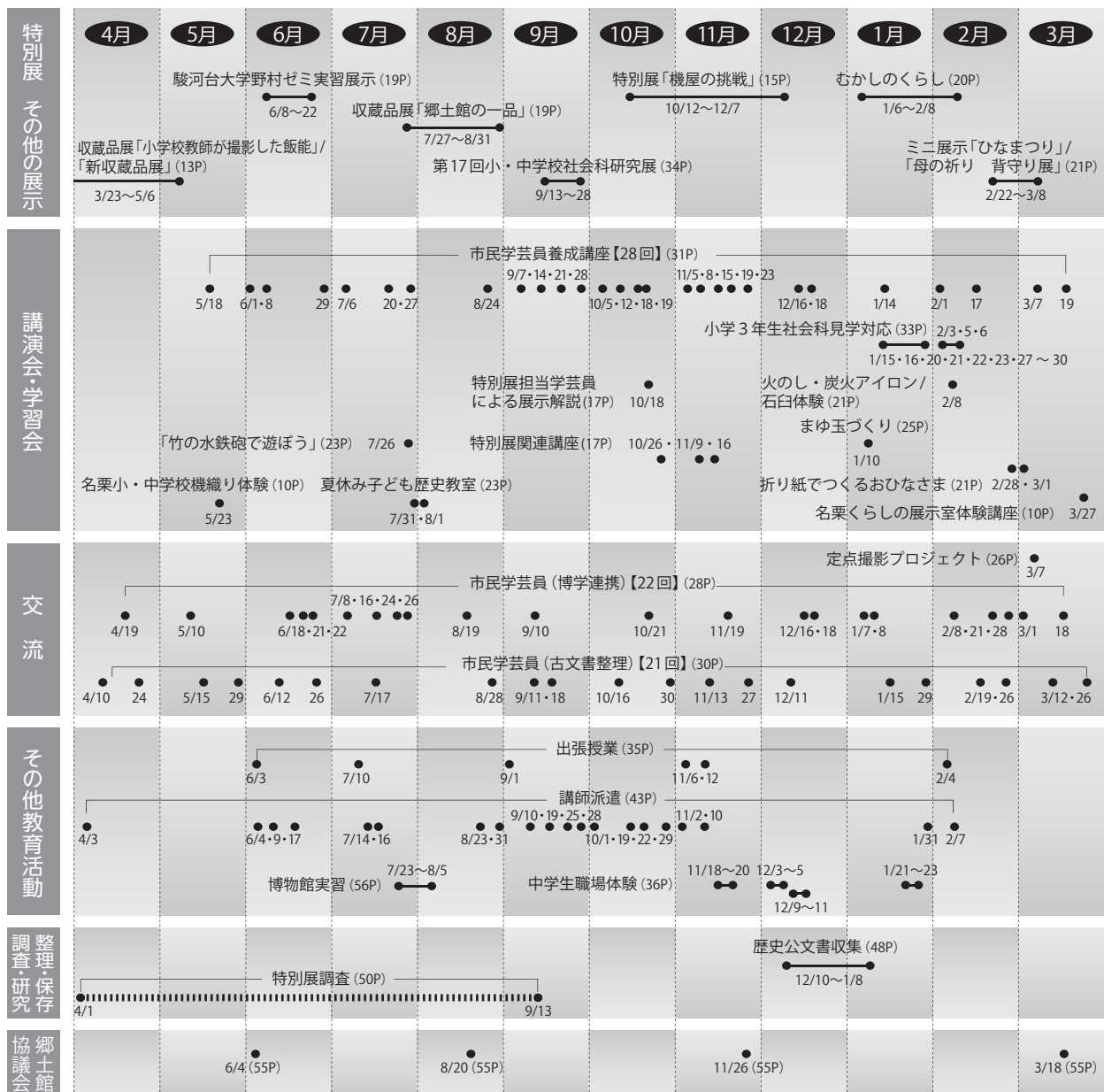


# 平成26年度の事業

平成26(2014)年度において特筆すべき事業は、名栗くらしの展示室の開設である。その経緯については9・10ページに掲載したが、平成22年度に旧名栗庁舎に展示されていた民俗資料を整理してから、足掛け5年の事業の結びとなった。6月にオープニングセレモニーを行なったが、それに先立ち5月に名栗小・中学校の児童・生徒を対象とした、機織り体験を実施した。また、平成27年3月に『むかしのおかし「麦こがし」をつくってみよう!』を開催し、関連事業として2つの体験学習会を行なった。

特別展は、飯能の市街地において明治・大正期を中心に「所沢織物」(綿織物・絹綿交織物)を生産していた機屋をテーマに開催した。この特別展は当館において初めて、外部の研究者に展示原案の作成を依頼したものである。所沢織物の研究者である宮本八恵子・木村立彦両氏の研究成果を、お二人のご協力のもと展示の形にまとめた。当館では手が届かない分野について、専門家に助力を仰ぎ展示にまとめた、初めての試みといえる。

なお、5月11日は70万人目の入館者をむかえ、セレモニーをおこなった。



収蔵品展

## 小学校教師が撮影した飯能 —「大正デモクラシー」の時代— 同時開催：新収蔵品展

期 間	平成26年3月23日(日)～5月6日(日)		
開館日数	38日間		
入館者数	3,661人 (1日平均96.3人)		
展示点数	174点		
総 経 費	358,597円 (入館者1人あたり23.8円)		
(内 訳)	印 刷 費 73,500	写真関係費 99,498	通信運搬費 15,968
	消 耗 品 費 45,686	賃 金 55,695	

### 1 趣 旨

第一飯能尋常高等小学校(現在の飯能第一小学校)の訓導であった岩田富之助は、大正11(1922)年から同15(1926)年にかけて、住んでいた加治村の住民や風景、勤務先の小学校の様子などを撮影した。その数は、ガラス乾板・フィルムを合わせて474点に及ぶ。しかもその3/4以上に被写体と撮影年月日が記されていて、記録史料としての価値を高めている。

また、これらの写真が撮影された時期は、いわゆる「大正デモクラシー」の時代に当たる。「大正デモクラシー」については、現代においてイメージする「デモクラシー」と異なり、帝国主義下でのそれであり、吉野作造らの民本主義者でさえ、対外認識において植民地主義との対決には甘さがあり、その限界が指摘されている。

本展示では、岩田富之助撮影写真を中心に、現在の飯能市域の日常の風景を紹介するとともに、

写真では感じることのできない、当時の状況や雰囲気を、当館で所蔵している図書や雑誌、生活用品などを併せて展示することによって、「大正デモクラシー」の時代の飯能市域の様子を知ってもらうことを目的とした。

また、同時に平成25年度に寄贈を受けた資料を紹介する「新収蔵品展」を開催した。これは、寄贈者を顕彰するとともに、最新の収蔵資料を広く公開するためのものである。寄贈者一人につき、最低1点は展示できるよう資料を選んだ。

### 2 展示の構成

#### I 岩田富之助撮影写真

岩田富之助が撮影した写真史料群の概要をその人物像と合わせて紹介した。

#### II 大正期の飯能写真事情

大正10年代になると、飯能の町には既に3つの営業写真館が開業していたが、その一方でアマチュアカメラマンたちも写真展覧会を開くなどの活動を行っていた。営業写真館の台紙付写真や写真展覧会の目録など、当時の飯能町における写真事情がうかがえる資料を展示した。

#### III 90年前の飯能、風景と人々

岩田富之助が大正11年から大正15年の間に撮影した写真を、風景、人物、学校、旅、社会生活、生業などに分けて展示した。

#### IV 大正10年代の飯能

「大正デモクラシー」の時代に、現在の飯能市



展示風景 入口部分

域で起きた出来事や日常生活の様子などを岩田富之助撮影写真と文書、着物など実物資料で紹介した。

#### V 「大正デモクラシーの時代」

「大正デモクラシー」の時代の息吹は、飯能地域に住んでいた人々がもっていたものにも反映されている。図書や雑誌などを中心に、時代の雰囲気を感じ取ることでできる資料を展示し、合わせてこの時代に観光旅行が普及したことを、岩田富之助が富士登山へ行った時の写真などを使って表現した。

### 3 印刷物

ポスター (B2判カラー)	300枚
ちらし (A4判白黒)	200枚
リーフレット (A4判白黒6ページ)	260部

### 4 関連事業

#### ◎展示解説

日時 4月12日(土) 午後2時～3時

解説 当館学芸員

参加者 15人

### 5 評価

今回取り上げた写真は、富之助が住んでいた願成寺の周辺の風景や人物を写したものが多い。撮影場所が限定されているからこそ、なかなか記録に残りにくい庶民の暮らしぶりや生活空間など細かいところまで写真に残っていて、興味を惹いたのであろう。入館者数は、収蔵品展を春に開催することになった平成11年以後では、「飯能ゆかりの画家たち」(平成22年)、「収蔵刀剣展」(平成19年)に次いで多かった。

アンケートの集計結果を見ると、来館者の半数

が市内在住であること、展示会を知ったメディアはポスターが20%、「広報はんのう」が15%ほどであることなど多くはこれまでの特別展などと同じ傾向である。異なる点といえば、これまでは男女比が6:4であったのが、今回は女性の方が多かった(58%)ことである。今回は、解説の文字数やキャプションの文字の大きさなどについても訊いたので、それについてご紹介したい。

まずその概要だが、各コーナーの冒頭に置いた解説パネルは、B3判(縦51.5×横36.4cm)で文字サイズは17.5p、文字数は400字ほどとした。また、ケース内の展示資料のキャプションは100字前後、展示資料である写真のキャプションは90～120文字ほどとし、タイトルがMSPゴシックの22p、本文がHGSゴシックMの17pである。実寸サイズを掲載したが、ケースに入れられた資料の場合、のぞきケースだと高さが32cm、固定ケースの場合だと奥行きが80cmなので、実際はさらにそれより10cmほど離れた位置から見ることになる。

文字数については、76%が「ちょうどよい」という回答であった。しかし前年の特別展「飯能方面湖水の如し」では、コーナー解説パネルの文字数が今回より多く500～600字であったにもかかわらず、「ちょうどよい」は9割を超えた。単に文字数ではなく内容次第ということであろうか。

次に文字の大きさであるが、「ちょうどよい」が82%、「小さすぎる」が14%であった。一般的に資料鑑賞の邪魔にならないよう、キャプションは目立たないようにすることを意識するため、どうしても小さくなりがちである。今回のそれも展示グラフィック制作読本を参考に作成したが、「小さい」とする評価が1割を超えており、文字のサイズを大きくするか、フォント(書体)を変えるなどの改善が必要だろう。

## 金子写真館の台紙付写真

藤田美津子家No.37

大正10(1921)年9月

収蔵品展キャプションサンプル(ケース内資料) 原寸大

特別展

はた や

# 機屋の挑戦

—明治から昭和へ、小槻工場物語—

期 間	平成26年10月12日(日)～12月7日(日)					
開館日数	49日間					
入館者数	5,095人 (1日平均103.9人)					
展示点数	88点					
総 経 費	1,194,607円 (入館者1人あたり234.5円)					
(内 訳)	印 刷 費	626,397	写真関係費	66,360	展示委託料	100,440
	通信運搬費	29,680	消耗品費	38,880	報 償 費	270,000
	賃 金	62,850				

## 1 趣 旨

小槻工場は、綿織物・絹綿交織物の機屋である。明治10(1877)年に、現在の飯能市仲町に創業、昭和初期に一度工場を閉鎖するが、数年を置いて再開、以後昭和20年代まで操業した。

小槻家の子孫である堀越喜代子氏から当館に、「小槻家文書」の寄贈(当初は寄託)があり、それらの史料について、日本民具学会理事である宮本八恵子氏と、地方史研究協議会会員である木村立彦氏らによる研究が進められている。

小槻工場の製品は所沢織物として取引されていたため、両氏の研究視点は所沢織物の歴史の解明を目的に設定されている。しかしながら、その研究成果は、所沢織物の産地としての飯能を知る上でも非常に有益である。

飯能は絹織物の集散地であったため、織物といえば絹というイメージが強く、綿織物・絹綿交織物については、これまであまり注目されてこなかった。宮本・木村両氏の研究はまだ完結していないが、現時点での成果を紹介することは大きな意義があると考え、宮本・木村両氏に全面的な協力をいただき、今回の特別展を企画した。

## 2 開催に至る経緯

まず、この発端は平成5(1993)年に堀越喜代子氏により、当館へ小槻家文書が寄託されたことが挙げられる。

しかし、織物工場に関する史料は、読み解くためには製織についての知識がないと難しい。

小槻工場の研究の開始には時を待たなければならなかった。

状況に変化が現れたのは、平成18(2006)年である。郷土館友の会での情報を通じ、(故)松本英男氏が小槻家文書の存在を知ったことがきっかけとなった。

松本氏は、交流のあった宮本・木村両氏と共に、堀越喜代子氏の承諾を得て小槻家文書の調査に着手。調査には染織家である田口(小峰)和子氏も加わり、2年後の平成20(2008)年に、調査の中間報告である「小槻藤次郎家織物関係資料について—調査経過と中間報告—」が『飯能市郷土館研究紀要』第4号に掲載された。

惜しいことに、松本氏はその後他界されたが、研究は宮本氏と木村氏により継続されてきた。

かねてから当館では、両氏による研究について



展示風景 入口部分



て関心を寄せていた。平成25(2013)年にその成果を展示することに関し打診したところ、快い返答をいただき、平成26年度特別展として小槻工場の展示を開催することとなった。また、あわせて宮本・木村両氏に、展示原案(図録原稿原案)の作成を依頼することも正式に決定された。

ちなみに当館において、展示原案の作成を外部の研究者に依頼した特別展は、本展示会が初めてである。

### 3 展示の構成と概要

展示構成は、宮本・木村両氏との協議の結果、次の4つのコーナーに分けた。「1 入間地方の織物」「2 織物集散地の状況—所沢織物と飯能織物—」「3 小槻工場の誕生とその経営」「4 機屋の挑戦—布見本帳から読み解く「挑戦する機屋の軌跡」—」である。そして、これらの前後にプロローグとエピローグを付す構成とした。

1から4の各コーナーについて、次に概要を説明する。

#### (1) 入間地方の織物

小槻工場が操業していた当時の背景を説明するため、入間地方が、綿織物と絹織物の生産が混在している地域であったこと及び、綿織物・絹綿交織物・絹織物について説明した。加えて綿織物・絹綿交織物の集散地である所沢市場と、絹織物の集散地である飯能市場の動向についても概説した。

#### (2) 織物集散地の状況

やはり当時の背景の説明として織物市場と組合について解説した。所沢市場及び武蔵織物同業組合(その後所沢織物同業組合などに改組)、飯能市場及び武蔵絹織物同業組合(その後飯能織物同業組合などに改組)について、それぞれの機業界の動向などを取り上げた。

#### (3) 小槻工場の誕生とその経営

このコーナーから本題に入る。小槻家の系譜に始まり、工場の変遷、工場の組織と経営の状況、材料と道具へのこだわりなど、関連する史料を展示して紹介した。

#### (4) 機屋の挑戦

布見本帳を分析し、小槻工場がいかに製織す

る布の研究に熱心であったか、そしてその研究が、所沢織物業界の中でもいかに先進的であったかについて紹介した。品質の向上と新製品の開発に傾注する“機屋の挑戦する姿”を、小槻工場が所沢機業界のイノベーター(革新者)であったことを、ここで知って欲しかったわけだが、それは、本展示会で最も伝えたかったことでもあった。

### 4 印刷物

ポスター(B2判カラー)	300枚
チラシ(A4判両面・表カラー、裏1色)	8,000枚
展示図録(A4判カラー56ページ)	800部
パンフレット(A4判白黒4ページ)	300枚



関連講座②「布見本にみる織物の軌跡」宮本八恵子氏



関連講座③「入間地方における織物と小槻工場」木村立彦氏

## 5 関連事業

### ◎特別展関連講座

#### ①「織物入門～木綿と絹～」

日 時 10月26日(日) 午後2時～4時  
 講 師 宮本八恵子氏(日本民具学会理事)  
 会 場 当館学習研修室  
 参加者 29人

#### ②「布見本にみる織物の軌跡」

日 時 11月9日(日) 午後2時～4時  
 講 師 宮本八恵子氏(日本民具学会理事)  
 会 場 当館学習研修室  
 参加者 38人

#### ③「入間地方における織物と小槻工場」

日 時 11月16日(日) 午後1時30分～3時  
 講 師 木村立彦氏(地方史研究協議会会員)  
 会 場 当館学習研修室  
 参加者 24人

### ◎展示解説

日 時 10月18日(土) 午後2時～3時  
 解 説 当館学芸員  
 参加者 14人

## 6 評価

以上が特別展『機屋の挑戦』及び関連事業の概要である。繰り返しになるが、本展示会では従来“絹織物の集散地・産地”としてのイメージが強かった飯能が、“実は所沢織物(綿織物・絹綿交織物)の産地でもあった”こと、所沢織物のイノベーターがここ飯能の地に居たということを明らかにした。これまで知られていなかった事実について、史料を元に詳述したこと、最新の研究成果を展示にまとめたことなども考えあわせると、有意義な展示であったのではないかと評価できる。

展示の開催期間中、アンケートを実施し、見学者のうち約1.65%にあたる84人の方々から回答をいただいた。アンケート回答者の3割弱の方が、展示会を見に来た理由として、「織物に興味があるから」と答えていたのだが、実際の展示では長着や反物など織物の実物資料は少なかった。自由筆記などを見ると、がっかりされた方も居られたようである。しかし、展示内容については75%の方から「良かった」という感想をいただいた。内容的にやや難解な部分もあったかもしれないが、おおむね好評だったと評価できる。

### ◎特別展「機屋の挑戦」展示資料目録

No.	資料名	点数	所蔵者	形態	備考
<b>1 入間地方の織物概況</b>					
1	「埼玉縣之産業 附名所旧跡」	1点	当館	原資料	
2	女物単長着	1点	宮本八恵子氏	原資料	「まるまめ」の紺
3	男物裕長着	1点	宮本八恵子氏	原資料	「ぼち」の紺
4	双子織用の箒	1点	宮本八恵子氏	原資料	十五羽半
5	女物長着	1点	大森美恵氏	原資料	かつお縞
6	男物長着	1点	大森美恵氏	原資料	茶黒
7	「登録 湖月」	1点	当館	原資料	
8	「登録 湖月明石 あまつ」	1点	当館	原資料	
9	女物単長着(夏物縮)	1点	所沢市生涯学習推進センター	原資料	よろけ縞
10	女物単長着(夏物縮)	1点	所沢市生涯学習推進センター	原資料	よこ縞
11	「昭和3年度 所沢夏物織物競技会」	1点	入間市博物館	写真	
12	『所沢織物誌』	1点	当館	原資料	
13	『飯能絹織物』	1点	当館	原資料	
14	生絹	1点	当館	原資料	
15	生絹	1点	町田清氏	原資料	精練済み
16	『武蔵野線沿道案内』	1点	当館	原資料	
17	『飯能織物同業組合案内 飯能商工会案内』	1点	当館	原資料	
18	男物裕長着・羽織	一式	町田清氏	原資料	
19	『飯能織物』	1点	当館	原資料	
20	飯能大島紬宣伝用パネル	1点	当館	原資料	
21	女物裕長着	1点	当館	原資料	
<b>2 織物集散地の状況 ー所沢織物と飯能織物ー</b>					
22	「所沢織物組合事務所国体旗」	1点	所沢市生涯学習推進センター	写真	
23	『所沢織物同業組合月報』	8点	当館	原資料	
24	表彰状(組合発展功績につき)	1点	当館	原資料	小槻家文書No.170

No.	資料名	点数	所蔵者	形態	備考
<b>3 小槻工場の誕生とその経営</b>					
25	古写真[武蔵染色学校前記念]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.190
26	古写真[小槻工場]	1点	当館	写真	
27	[地所売渡証]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.352
28	[建物滅失二付登記申請]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.343
29	[建物所有権保存登記申請書]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.423
30	[火災保険証券]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.342
31	[火災保険契約通知書]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.403
32	[火災保険証券]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.362
33	[火災保険証券]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.363
34	[小槻工場]しるし半纏	1点	当館	原資料	
35	[金円出入帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.227
36	[市日記]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.228
37	[日記控]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.225
38	[作業日票]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.91
39	[工女仕着付表]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.266
40	[年中行事]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.204
41	[通帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.29
42	[綿糸通]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.102
43	[原料仕入帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.84
44	[御通]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.28
45	[豊田式鉄製小幅織機部分品番号帳 型式Y]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.213
46	[豊田式Y型織機付属品値段表]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.215
47	[野上式動力織機説明書第五版]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.185
48	[専売特許 鈴木式力織機鋳物分解図]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.214
49	[書簡]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.332
50	[染工賃引合 森田染工所]	8点	当館	原資料	小槻家文書No.332・92～98
<b>4 機屋の挑戦 一布見本帳から読み解く「挑戦する機屋の軌跡」一</b>					
51	[飯能美芳野]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.199
52	[日光紬]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.237
53	[日の出綾]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.238
54	[呉羽紬]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.239
55	[帝彩]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.240
56	[特製桐生銘仙]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.243
57	[羽衣紬]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.244
58	[高澤珍緋]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.245
59	[新節及綿ユーキ第壹号]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.271
60	[登録 御召式名譽セール]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.274
61	[一休紬]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.283
62	[唐棧]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.284
63	[奴明石]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.285
64	[月下明石]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.286
65	[江戸紬一湖月会一]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.314
66	[大正拾貳年 染織物標本 第壹類]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.157
67	[大正拾四年 染色物標本 第壹類]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.154
68	[各国参考切本 織物切本帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.66
69	[冬物柄本帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.72
70	[向山商店注文品 織物切本]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.75
71	[夏物図案台帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.130
72	[肉筆図案]	8点	当館	原資料	小槻家文書No.2
73	[紺地夏物標本]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.67
74	[柄市内製小柄番号]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.64
75	[夏物市田商店注文]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.60
76	[高砂縮]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.128
77	[錦華縮]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.135
78	[機場柄立縞割帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.3
79	[夏物切本帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.68
80	[商品棚卸帳 第壹号]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.110
81	[御店注文柄]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.65
82	[御通]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.276
83	[賃織物受渡台帳]	1点	当館	原資料	小槻家文書No.100
<b>エピソード</b>					
84	(交織に対して 二等賞銀牌授与)	1点	当館	原資料	小槻家文書No.172
85	(乙羽紬に対して 金牌授与状)	1点	当館	原資料	小槻家文書No.187
86	(優賞(柞蚕結城 第二回品評会にて)	1点	当館	原資料	小槻家文書No.171
87	(縮縮に対して 金牌授与状)	1点	当館	原資料	小槻家文書No.186
88	(所澤上布に対して 有功賞牌授与状)	1点	当館	原資料	小槻家文書

※長着については期間中展示替えを行なった

## その他の展示

当館では、収藏品展や特別展のほかにも、文化財の普及活用や収藏品資料の紹介などを目的として、いろいろな展示をおこなっている。ここでは、それらを紹介する。

駿河台大学野村ゼミ実習展示

### 「飯能焼 ～火と土と職人の技～」

期 間 平成26年6月8日(日)～6月22日(日)

開館日数 13日間 展示点数 71点

入館者数 1,004人(1日平均77.2人)

#### 1 趣 旨

市内に所在する駿河台大学と本市との間では、平成23年11月に基本協定書を締結し、様々な分野で相互に連携し事業を行なってきた。

当該事業もその一つで、メディア情報学部の野村ゼミからの依頼により、平成21年度から実施している。将来学芸員を目指すゼミの学生が、博物館展示に関する学習の一環として、展示会の企画から設営まで全てを担い開催している。

期間中は学生が常時会場におり、来館者に対応している。

#### 2 内 容

「飯能焼」は、飯能市内において江戸時代末(1830年頃)から明治時代前半にかけて焼かれていた陶器である。濃緑色の釉薬と白粘土のイッチン描による文様は、素朴ながらも美しい。そ

の魅力に取りつかれた人のうちには、飯能の地で陶芸家として活躍する人も現れ、昭和50年代以降、飯能焼を復活させている。

本展示では、飯能焼とはどのようなものか、長い歴史や製作方法、飯能焼のルーツについて解説し、クイズや実物を交えることで、子どもにも分かりやすく、楽しく学べる展示を目指した。

その目的は、飯能焼を身近な存在と知ってもらうと共に、その窯場なども紹介し、飯能焼及び作陶に関する施設が飯能市の地域資源だと、再認識してもらうことである。

主な展示物は飯能焼の実物資料、製作工程に関する写真などである。



展示風景

収藏品展

### 郷土館の一品

期 間 平成26年7月27日(日)～8月31日(日)

開館日数 31日間

入館者数 1,925人(1日平均 62.1人)

展示点数 69点

#### 1 趣 旨

当館の入口の展示台に月替わりで収藏品資料を展示する「今月の一品」は平成18年6月に始めたも

のである。当初は、入口に入って一番目立つ所なので、その季節にあった資料を展示するという趣旨であった。しかし、何年か続けていくうちに、毎年同じような資料になってきたため、学芸員が交代で紹介したい資料を選び展示するようになった。その結果、このコーナーは学芸員が収藏品から選んだ「逸品」の紹介という性格も兼ね備えたものとなった。これまで展示した資料は91点のほり(平成26年6月時点)、これらには、その時々学芸員の思いが反映している。

今回の展示では、これらの一品(逸品)を一堂に

集めることで、当館の収蔵品の多彩さ、1つ1つの資料から読み取れること、資料に対する学芸員の思いなどを感じてもらうことを目的に開催した。

## 2 内容

これまで展示した「今月の一品」から69点を選び、次の7つのコーナーに分けて展示した。

### ①季節の一品

その時々季節にあった「一品」を集めた。

### ②西川林業の道具

当館で所有する県指定文化財「飯能の西川材関係用具」448点の一部を紹介した。

### ③文化

飯能の文化に関する資料を紹介した。

### ④古文書

古文書からわかるさまざまな歴史、意外な事柄を紹介した。

### ⑤歴史を示すモノ

歴史につながる「モノ」資料を集めた。

### ⑥これ、何？

一見しただけでは、用途がわからない資料。何に使われた道具か考えてもらうコーナーとした。

### ⑦多彩な一品

他のコーナーで紹介した以外のさまざまな「一品」を集めた。



展示風景

## 小学3年生見学対応展示

### むかしのくらし —民家の台所再現—

期 間 平成27年1月6日(火)～2月8日(日)

開館日数 30日間 展示点数 109点

入館者数 3,211人(1日平均107.0人)

## 1 趣 旨

小学3年生は、社会科の郷土学習の中で「昔の人々とくらし」について学ぶことになっている。当館の見学もその学習の一環である。

本展示はこの単元の学習に対応するために、平成13年度より市民学芸員と共にプログラムの開発に取り組み、平成14年度以降、特別展示室内に民家の土間とカッテを模した空間を作り民具を展示している。

また、展示室内では、開発されたプログラムに基づき、火のし・炭火アイロンの体験を行なっている。

この展示は一般の市民にも見ていただけるようミニ展示として位置付けている。加えて、近年、博物館において試みられている回想法を意

識し、市内や近隣に所在する高齢者の介護施設にも案内を行っている。

## 2 内 容

特別展示室内に農家のカッテと土間の様子を再現した。カッテには囲炉裏を作って周囲に箱膳や茶の間にある家具などを置いた。土間にはかまど・流し場を設け、関連する道具を展示するとともに、壁面を使って農具などを掛けた。

また、このスペースを利用して、火のし・炭火アイロンの体験をする関連事業を開催した。



関連事業 火のし・炭火アイロンの体験

### 3 関連事業

◎火のし・炭火アイロン／石臼体験

日 時 2月8日(日) 午前10時～午後3時

指導者 当館市民学芸員

会 場 当館特別展示室・休憩コーナー

参加者 162人(延べ人数)

## ミニ展示 「ひなまつり」 同時開催 母の祈り 背守り展

期 間 平成27年2月22日(日)～3月8日(日)

開館日数 14日間

展示点数 ひなまつり13点 背守り展 48点

入館者数 3,965人(1日平均 283.2人)

### 1 趣 旨

商店街の活性化を主な目的として、商店の店先や民家の座敷などに雛人形を展示してもらい、観光客や市民に雛飾りと街の散策を楽しんでもらう「飯能ひな飾り展」は、10回目を迎えた。当館ではこれにあわせて第1回目からミニ展示を開催しており、まちづくりに直接関わることのできる貴重な機会の一つになっている。特に今年は飯能ひな飾り展10回記念企画展として実行委員会から要請のあった「母の祈り 背守り展」を同時開催した。

### 2 内 容

ミニ展示「ひなまつり」は、展示ホールを会場として、平成25、26年度に寄贈されたひな人形を

中心に展示した。特に今回は寄贈された際の聴き取りで判明した「オクリビナ」「ヨメノヒナ」について解説を加えた。

「母の祈り 背守り展」は特別展示室を会場とした。「背守り」とは子どもの着物の背中につけた魔除けのお守りで、その形状や模様は縫目だけの素朴なものから、刺繍で飾ったもの、紐を垂らしたもの、愛らしい押絵を付けたものまで、多彩で興味深いものがある。そのひと針ひと針の縫目には、わが子の健やかな成長を祈る母親の切実な思いが込められている。その思いはひなまつりにも共通するものがあることから同時開催した。

展示資料は藍染め作家、背守り収集家である鳴海友子氏所蔵資料を借用したものが中心で、当館所蔵の背守りが付けられた子どもの着物8点も同時に紹介した。

### 3 関連事業

付帯事業として、恒例となっている当館市民学芸員による「折り紙でつくるおひな様」を実施した。

◎折り紙でつくるおひな様

日 時 2月28日(土)・3月1日(日)



関連事業「折り紙でつくるおひな様」実施風景



「母の祈り 背守り展」展示風景

午前10時～正午 午後1時～3時  
 講師 当館市民学芸員

会場 当館休憩コーナー  
 参加者 2月28日 55人 3月1日 61人

## 今月の一品

### 1 趣旨

当館では「今月の一品」と題し、入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示している。季節感が感じられる資料や、その時点で行われている資料の整理、調査・研究の中で注意が向けられた資料などを展示している。収蔵資料の活用を図るとともに、日頃の資料収集・調査・研究の成果を発表する場にもなっている。

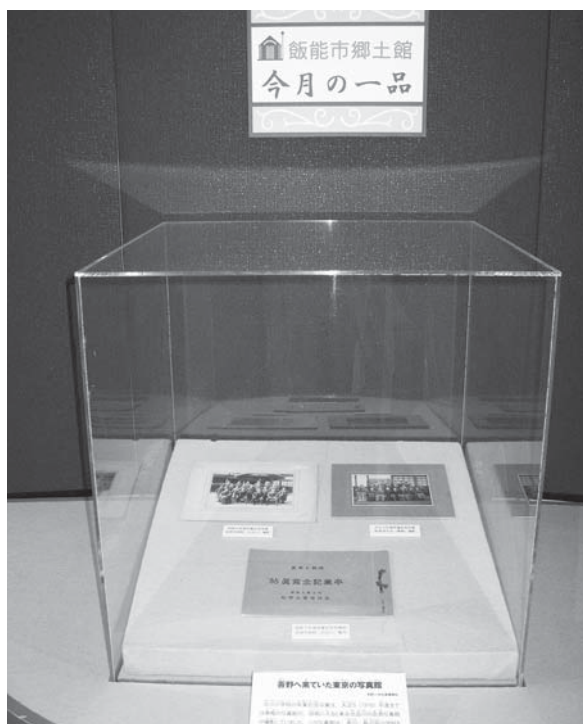


5月「雑誌『キング』」

展示資料の写真・解説は当館ホームページに掲載しており、過去に展示した資料を見ることができる。

### 2 展示資料

下記一覧表のとおり。



3月「吾野へ来ていた東京の写真館」

### ○平成26年度展示資料一覧

月	資料名・展示タイトル	資料番号等	担当者
4月	「木沢屋」(現五十嵐酒造)の徳利	民具No.3257	村上
5月	雑誌『キング』	石井健祐家文書No.256	尾崎
6月	柄鋏	民具No.1428	館長
7月	真能寺村絵図	絵図No.13	尾崎
8月	爆弾の破片	民具No.5686	館長
9月	夏季休業中児童心得	教育委員会文書No.34	宮島
10月	マブシ織り機	民具No.1289	館長
11月	学校日誌	吾野小学校文書No.77・79・80・99	尾崎
12月	「火起こし」と「台十能」	「火起こし」(炭おこし 民具No.386)・「台十能」(炭火運び 民具No.573・1411)	宮島
1月	羊の毛をかるはさみ	民具No.4616	村上
2月	豆炭あんか	民具No.4440・4441	村上
3月	吾野へ来ていた東京の写真館	「大正元年度卒業記念」[吾野小学校寄贈写真(以下略)5-10]・「昭和7年度卒業記念写真帖」(2-6)・「[昭和8年度卒業記念]」(2-7)	尾崎

## 竹の水鉄砲で遊ぼう

日 時 平成26年7月26日(土)  
午前9時～11時30分 午後1時～3時30分  
対 象 子ども  
会 場 当館入口前  
参加者数 56人  
指 導 者 当館市民学芸員(10人)  
博物館実習生(3人)

### 1 趣 旨

この体験学習会は、夏休み中の子どもの居場所づくりを目的として中央公民館、図書館と共同で行っていた「夏休み子どもクラブ」の枠組みが平成23年度まででなくなったことを受けて、これを独立させ、子どもを対象とする事業が少ないという課題に対応したものである。水鉄砲をはじめとした竹の玩具で遊んだり、実際に水鉄砲を作ったり

することで、参加者に昔の手作り玩具による遊びの楽しさを知ってもらうことを目的とした。

### 2 内 容

竹の水鉄砲をあらかじめいくつか作っておき、それを使って遊んでもらったり、希望する子どもには水鉄砲の作り方を指導した。そのほか、竹馬、竹ぼっくり、竹トンボなどの竹製玩具を用意しておき、自由に遊べるようにした。



水鉄砲で楽しく遊ぶ子ども達

## 夏休み子ども歴史教室

### 「文化財めぐりとかるた作り」

日 時 平成26年7月31日(木)・8月1日(金)  
午前9時～午後4時  
対 象 小学3～6年生 参加者数 9人  
会 場 当館学習研修室  
市立図書館多目的ホール  
指 導 者 尾崎泰弘(当館学芸員)  
有馬雅彦(生涯学習課主査)  
博物館実習生(3人)

### 1 趣 旨

小学3・4年生が使う社会科副読本「はんのうし」には、地域に伝わる文化財や祭り・行事などを調べるページがあるが、先生方がその授業の進め方に苦労していると聞く。それは、その歴史的、地域的価値について中学年の児童に説明することが難しいだけでなく、その適当な教材を作ることが容易ではないからと考えられる。

そうした中であって、昭和58(1983)年に飯能郷土史研究会によって作られた「飯能郷土史かるた」は、カルタ遊びを通して地域の文化財や歴史を学

ぶことができる数少ない小学生向け教材の1つである。副読本の中では「学習のまとめ」として調べたことをカルタにすることがすすめられ、この「郷土史かるた」の一部が掲載されているものの(ただし絵札は別物)、発行から既に30年以上が経過していることもあって、学校現場では、こういったカルタの存在はほとんど知られていないと思われる。

しかし、この「飯能郷土史かるた」については、折りにふれて子どもが地域の歴史に親しむための適当な素材であるとの指摘を受けてきた。また当館で小学校へ出張授業に行った際にこれを使ったみたところ、現場の先生からも高い評価を得て、教材としての可能性を強く認識するに至った。ただ、このカルタが発行された後、地域史研究は進展し、指定文化財の件数も増加していて、この内容が現況の研究結果に合っていないという課題があり、改訂版の製作を検討する時期に入っているともいえる。

そこで、今回の歴史教室では、「飯能郷土史かるた」を実際に使い、そこに取り上げられている文化財や地域遺産の見学を合わせて行うことによって、それを参加者により強く印象づけ、地域の歴史に興味をもってもらうことを目的とする。本講座は、



「カルタ」の学習教材としての有効性を検証し、新版かるた発行への足がかりと考えるものである。

なお、今回は教育委員会生涯学習課で毎年夏休み期間中に開催している親子対象の文化財めぐりと合体させ、同課と共催で実施した。

## 2 内容

本事業の目的は、「飯能郷土史かるた」を介して地域の文化財、地域遺産に興味をもってもらうことにある。そこで、まず最初に参加者にカルタで遊んでもらい、そこに描かれた文化財を自らの目で確認し、調べ、それを基に各自が「オリジナルな」カルタを作る、という流れにした。ただし、44枚すべてを限られた時間で作成するのは不可能であるため、今ある絵札に色鉛筆で色を付けたり、実際に見学した文化財については絵札そのものを作ったりして、合わせて22枚の新しいカルタが出来上がるようにした。実際に見学したのは、市指定建造物「店蔵絹甚」、県指定史跡「中山信吉墓」（智観寺）、日高市指定史跡「高麗王若光墓」（聖天院）、県指定建造物「常楽院不動堂」及び、国指定建造物「福德寺阿弥陀堂」である。

現地ではその質感や大きさは体感できるものの、説明を聞くだけでは子どもたちは関心を示さないと考え、歩幅からその大きさを計測したり、仰角から高さを測ったりする体験活動を交えながら解説を行った。また新たな絵札づくりの参考にするため、参加者は各自が持参したデジタルカメラで文化財の写真を撮影する機会を設けた。

また、実際に見に行くことのできない文化財については、カラー写真と簡単な解説を載せたカードを配付し、絵札に色を塗る際の参考としてもらった。

### ○当日の進行



絵札への色つけ作業

### ①7月31日(木)

最初に参加者を2つに分けて「飯能郷土史かるた」を使って遊んでもらった。グループを替えて2回行い、最後の1回は9人全員で実施した。参加者同士が少し慣れたところで、絵札に描かれた文化財のいくつかを説明し、その後絵札になっていて、当館で展示してあるため実物を見ることが可能な「双木本家飯能焼コレクション」を観察した。そして学習研修室に戻って、飯能焼の絵札に各自で色を付けた。

午後は、市のバスを使って「店蔵絹甚」と「中山信吉墓」の見学を行った。その後当館に戻り、配った絵札に色を塗る作業を行った。その間に参加者が撮影した写真をPCに取り込み印刷して、翌日の新たな絵札づくりの参考資料として利用してもらった。

### ②8月1日(金)

この日は午前中に大字高山にある「常楽院不動堂」と大字虎秀の「福德寺阿弥陀堂」を見学した。お堂の大きさを歩測したほか、福德寺阿弥陀堂では、ご住職から説明をしていただき、また葎戸を開ける体験をしてもらった。

東吾野地区行政センターで昼食を取ったあと、市立図書館多目的ホールで、2日間の文化財見学の成果を活かし、新たな絵札の製作にとりかかった。

子どもたちは、自分たちが撮影した写真を基に絵を描くことになるが、うまく写真が撮れなかった場合や、絵を描くことが苦手な子もいることを考慮して、写真をトレースできるようにカーボン紙を用意したり、博物館実習生による見本もあらかじめ作っておいた。また絵札ができてしまった児童には、読み札も作ってもらった。最後に飯能郷土史かるたの絵札に自分たちが色を付けた絵札を加えてかるた遊びを行った。

なお、児童があらたに作成した絵札はその場でスキャニングし、そのデータを実寸サイズの絵札の枠に貼り付けてボール紙に印刷し、後日、児童に渡した。また、夏休み期間中の8月7日から9月4日まで当館休憩コーナーでそれらを拡大して展示した。

## 3 反省点

先述のとおり、当該年度の夏休み子ども歴史教室は生涯学習課と共催で行ったわけであるが、執務場所が離れているため協働が十分できず、また、参加人数が募集人数の半数に満たなかったこともあり、結果的に共催にした意味はほとんどなかったといわざるを得ない。

また、準備が後手に回り、広報はんのうやチラシにその内容を具体的に盛り込めないなど、その遅れが広報から当日の運営、ワークシートの教材の内容などに影響を来してしまった。事前に文化財担当や博物館実習生などと議論しながら進められたならば、もう少し運営も円滑に、かつ充実した内容にすることができたかもしれない。

さらに、児童の保護者は30～40歳代が中心と考えられ、子ども向け事業の情報を得る手段は、ICTの割合が高くなって来ていると思われる。例えば、広報の記事にHPのアドレスもしくはQRコードを入れるといったことや、飯能市のツイッターを活用することも必要であろう。参加受付の方法も電話だけでよいのか、という点も検討が求められる。

いっぽうで、地域の歴史を学ぶ教材として「カルタ」は非常に有効であること、そして、カルタを作ることは、絵札、読み札ともに小学生中学年以上であれば十分可能であるという手応えをつかんだのは収穫であった。今後の子どもを対象とした学習活動の1つの方向性が見えてきたように思

う。また合わせて、かるたを作るためのツールとして今回製作した様々な教材を今後、どこかで活用することも考えていきたい。

図らずも当該年度(平成26年度)の11月に飯能商工会議所より「飯能市郷土カルタ」が発行された。素材は地域の歴史に限定されていないものの先を越された感があり残念であるが、今後とも発行のタイミングを計りながら、構想を暖めていきたいと考える。



参加者が作成した絵札〔店蔵絹甚(佐藤加奈)〕

## まゆ玉づくり

日 時 平成27年1月10日(土)  
午後1時30分～3時30分  
対 象 小学校低学年を中心とした児童とその保護者  
会 場 当館学習研修室  
参加者数 25人  
指 導 者 内野博司氏・内沼須美氏・小熊絢子氏・内沼政子氏

### 1 趣 旨

本市域を含め養蚕の盛んな地域では、小正月や初午などに繭の増収を祈願し、「繭玉」と呼ぶ団子を作りツゲの木などの小枝に刺して飾る行事がある。

この体験学習会は、小正月の行事を伝承していくことを目的に実施している。なお当該事業は平成22年度まで、郷土館友の会で主催されていたが、平成23年度から館主催事業としたものである。

### 2 内 容

最初に飯能市域における繭玉づくりの様子について解説し、作り方を説明した。その後、参加者全員が、蒸した米粉で繭玉を作る体験を行った。

繭玉はエントランスホールにて、「猪狩の大樫」に差し込んだミズキ・ツゲなどの枝先に、みかんと一緒に刺して飾った。

繭玉の飾り付け終了後、あらかじめ取り置いていた繭玉の試食を行なった。



繭玉の飾りつけ風景

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきている。博物館においても、市民との連携が欠かせない時代となった。

当館では市民参加活動を、博物館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とする「交流」活動ととらえている。現在では、定点撮影プロジェクトと市民学芸員がこれにあたり、当館の活動において特色の一つとも言える。

## 定点撮影プロジェクト

定点撮影プロジェクトは、市民自らが刻々と移り変わっていく「今」の時代を写真で記録し後世に残しておくことを目的に平成10年に開始した。以後17年間の活動を通し、撮影されたフィルムは350本あまりにのぼり、地域の移り変わりを示す貴重な資料として当館で保存することができた。

しかし、毎年開催していた定点撮影プロジェクト写真展は平成24年度を最後に開催しておらず、打合せ会への参加者も毎回5人程度と少なくなってしまった。さらに、昨年度からデジタル化した写真データの整備を進める予定だったが、26年度もシステムの不具合などの理由から、データの修正等に着手できずに、年度末を迎えてしまった。

このため、平成27年3月7日(土)に今後の方向性について話し合った(出席者8人)。この結果、

定点撮影プロジェクトの活動は体制が整うまで、しばらく「休止」とすること、定点撮影地点の撮影ができる人は引き続き撮影していくこと、今後打合せ会は定期的な開催はしないが、将来的には情報交換の場を設けるようにすることなどを決めた。



定点撮影プロジェクトの打合せ会

### ○平成26年度定点撮影プロジェクト活動一覧

回	月日	曜日	種類	内 容	参加人数
1	3/7	土	打合せ会	定点撮影プロジェクトの今後について	8

## 市民学芸員

### 1 これまでの経緯

当館における市民学芸員は「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている(当館『研究紀要』第1号)。平成20年度に文部科学省が実施した社会教育調査では、市が設置する博物館のうちほぼ半数で、ボランティアの登録制度を有しているが、当館の場合は教育普及や整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の

認定をしている点に特徴がある。

第Ⅰ期市民学芸員の養成は、平成12年1月の「特別展企画運営参加型」で、21人が参加した。講座の受講者は、同年秋に予定されていた特別展「飯能、戦後の暮らし」の企画段階から参加し、体験教室や展示解説などの運営にも携わった。

第Ⅱ期は、平成12年3月の「博学連携事業参加型」(以下、本節では「博学連携型」と略す)で、30人の参加を得て同年7月の夏休み親子歴史教室及び翌年1・2月の小学3年生見学対応に従事した。その結果、当館が提供する小学3年生の

「むかしのくらし」の学習プログラムは、質、量ともに飛躍的に充実し、それ以後の小学3年生の見学対応は、この体制をベースに行われている。

第Ⅰ・Ⅱ期は教育活動分野での養成であったが、第Ⅲ期は西川林業の道具の基礎調査を行うことを目的とし、平成16年2月から養成が開始された(「民俗調査参加型」)。この調査の目標は、当館にとって長年の懸案であった西川材の生産に関わる道具を県指定文化財とすることにあり、新たに2人が市民学芸員として認定された。この養成講座には、Ⅰ・Ⅱ期の市民学芸員も参加したため一体的に活動することとなり、結果的には「民俗調査参加型」の新たな市民学芸員にも、小学3年生見学の対応に従事してもらうことになった。

しかし、市民学芸員活動における参加人数の減少が、小学3年生見学対応の受け入れ態勢に影響を及ぼし始めたため、再度養成講座を実施することとした。平成19年度に実施された第Ⅳ期となる市民学芸員の養成講座は、博学連携型としては2度目となり、新たに17人が認定された。第Ⅳ期市民学芸員が加わったことにより、小学3年生見学対応は新たなプログラムが追加されるなど、内容の充実をみた。しかしながらその一方で、依然として活動の終了を表明する市民学芸員があり、モチベーションの維持が大きな課題となった。年数を経るごとに、人数の減少による小学3年生見学対応への影響が現実的な問題として再浮上したため、第Ⅴ期市民学芸員の養成が検討された。

平成22年度に、博学連携型としては三度目となる、第Ⅴ期市民学芸員が養成され、新たに11人が市民学芸員として登録された。また、第Ⅴ期と同時に、第Ⅲ期(民俗調査参加型)以来となる博学連携型以外の養成も行なわれた。すなわち「古文書整理型」(第Ⅵ期)の市民学芸員である。

しかしながら、博学連携型においては、小学3年生見学対応で活動する市民学芸員の人数の減少が、数年を経て繰り返される。当館の市民学芸員制度は、開始からすでに15年を数えており、活動人数の減少は生きている人間が主役である以上、避けて通れない問題と言える。

そのため、平成26年度は第Ⅶ期として、博学連携型の市民学芸員を4年ぶりに養成した。ま

た、平成24年度から始まった麦サークルの活動が活発化したのを鑑み、第Ⅷ期として「麦作文化探求型」の市民学芸員もあわせて養成を行なった(31・32ページ参照)。

平成26年度末の時点では、新たに17人が養成を終えて加わり、市民学芸員全体では55人が登録された。

その内訳は、博学連携型42人、古文書整理型13人(うち5人が博学連携事業参加型にも登録)、麦作文化探求型が18人(うち10人が博学連携事業参加型、2人が古文書整理型にも登録)である。

## 2 活動の概要

### ◎全体の活動

当館の市民学芸員の養成は、「博学連携」や「古文書整理」といった活動分野ごとに行なわれるため、ふだんはこの枠組みで活動している。この二つは定例会の日時や内容が全く異なるため、市民学芸員同士の交流がなく一体感が生まれてこない。そこで、地域の歴史や文化、あるいは博物館学に関わる研修や、他の博物館を見学する館外研修会は、年2回合同で行うこととしている。しかし、平成26年度においては、全体の研修会を実施出来なかった。

また、平成24年度より養成分野を横断した形で、市民学芸員が実験的な活動を始めたり、当館のイメージアップを図るなど、養成分野に関係なく自由に行えるサークル活動が始まった。以下に、個々の活動について述べる。

#### (1) 麦サークル

麦サークルは当館の西側敷地に畑をつくり、麦の栽培と収穫後の加工を行うものとして平成24年5月から始まった。会員は10人である。

平成26年度の活動は、5月13日に前年度に収穫し製粉した小麦粉を原料にうどんづくりを行った。6月4日には大麦、6月15日に小麦を刈り取り、脱穀は6月22日に開催した名栗くらしの展示室オープニングセレモニーで体験事業として実施した。9月25日には小麦を石臼で製粉した。

10月12日からは「麦作文化探求型」の市民学芸員養成講座の実務実習として畑の耕作が開始され、麦サークルは麦作文化探求型市民学芸員へ

と発展的に吸収することとし、10月28日をもって解散した。

## (2) 花サークル

花サークルは、当館駐車場から入口に向かう花壇に花を植えて、来館者を歓迎する雰囲気を表そうとするもので、以下に述べる生け花サークルとともに当館のイメージアップに貢献していただいている。

花の苗は、4月22日にマリーゴールドやペチュニアを、12月19日にパンジーやビオラ、スノーボールを植えた。その間水やり、枯れ花摘みなど合計5回、5人の市民学芸員が参加した。

## (3) 生け花サークル

このサークルは、当館入口風除室にある、元々は公衆電話が設置されていた空間に生け花を展示するものである。展示は1週間(火曜日から日曜日まで)を単位とし、市民学芸員4人が交代で担当した。また、その脇には花材と生けた人の名前を記したキャプションを付けた。生花の傷みが早い7月中旬から9月中旬は展示を行わなかった。活動した日は56日で、活動人数はのべ63人である。

なお、サークル活動については、活動時にその内容をノートに記してもらい記録とした。

### ◎博学連携型の活動

博学連携型の活動は、小学3年生見学対応を中心とし、その他、子ども対象事業である「竹の水鉄砲で遊ぼう」の運営が主体となる。

小学3年生見学対応は、当館の博学連携事業を代表するものである。毎年1月中旬から2月上旬までの約1ヶ月間、月曜日を除く平日に、ほぼ毎日行われる。市民学芸員が中心になって担うこ

の事業は、市民学芸員抜きでは考えられない。

その学習プログラムは、第Ⅱ期市民学芸員養成後に考案された形が基礎となっている。その後、第Ⅳ期市民学芸員により新しいプログラムが追加され、毎年、少しずつ改善も図られるなどして現在に至っている。このように市民学芸員は、小学3年生見学対応の進行役を果たすだけでなく、学習プログラムの考案といういわば事業のソフトウェアを作成する役割も担っている。

当館では、毎年度末の定例会で市民学芸員と協議し、次年度の活動方針を決めている。小学3年生見学対応は、準備から反省会までで下半期



市民学芸員(博学連携事業参加型)定例会の様子



生花サークル・風除室に展示された生花

のほぼ全てを要する一大事業のため、活動方針は主に上半期における活動に関するものとなる。

平成26年度は、4月に活動予定と内容について協議を行ったほか、小学3年生見学対応の改善について、ワールドカフェの手法(お茶などを飲みながら、リラックスした雰囲気の中での自由な発想による意見交換)を取り入れて話し合いをした。5月は館外研修会を行い、原市場にある中世の山城(リュウガイ城)に登った。6月には研修会として、平成25年度6月の研修会に引き続き、

「加藤樹家護符の研究」と題し講義を行った。近年の研修会は、市民学芸員からの“学芸員による最新の調査成果などを講義として聴きたい”という要望に応えたものとなっている。

平成26年度においても、平成25年度と同様に、市民学芸員の力を借りる場面が多かった。その理由としては、名栗くらしの展示室の開設が挙げられる。9・10ページで述べたように、平成26年6月22日に名栗くらしの展示室のオープニングセレモニーを実施したが、その前日準備と、

### ○平成26年度市民学芸員(博学連携事業参加型)活動一覧

回	活動日	曜日	開始時刻	テーマ	講師・担当	内 容	参加人数
1	4/19	土	9:30	4月定例会	村上	平成26年度の活動予定、内容について ワールドカフェ：小学3年生見学対応(以下「小3対応」と表記)の改善と、検討部会について	10
2	5/10	土	9:30	5月定例会	村上	館外研修会：中世の山城探訪①(原市場 リュウガイ城)	10
3	6/18	水	9:30	6月定例会	村上	研修会：加藤樹家護符の研究	12
4	6/21	土	9:00	当館共催事業準備	館長	名栗くらしの展示室オープニングセレモニー 体験コーナー(麦の脱穀体験)における民具(ガーコン・唐箕)の設置など	6
5	6/22	日	8:30	当館共催事業運営	館長	名栗くらしの展示室オープニングセレモニー 体験コーナー(麦の脱穀体験)における脱穀の指導及び、石臼体験における石臼挽き・麦こがし試食の指導など	8
6	7/8	火	13:30	体験学習会用材料調達	館長・宮島	「竹の水鉄砲で遊ぼう」用の竹の調達	4
7	7/16	水	9:30	7月定例会	村上	館外研修会：名栗くらしの展示室見学・中世の山城探訪②(小瀬戸小瀬戸城)	10
8	7/24	木	9:00	体験学習会準備	館長・宮島	「竹の水鉄砲で遊ぼう」の事前準備	5
9	7/26	土	8:30	当館主催事業運営	宮島	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	10
10	8/19	火	9:30	8月定例会	村上	小3対応に関する改善案の提出・説明	9
11	9/10	水	9:30	9月定例会	村上	小3対応に関する改善内容の決定	7
12	10/21	火	9:30	10月定例会	村上	研修会：特別展「機屋の挑戦」展示解説	11
13	11/19	水	9:30	11月定例会	村上	市民学芸員養成講座受講生[市民学芸員第Ⅶ期(博学連携事業参加型4期)以下「市民学芸員Ⅶ期」と表記]に対する、小3対応プログラムの説明及び実務実習	13
14	12/16	火	9:30	12月定例会	村上	小3対応のスケジュール・見学対応割当の確認。市民学芸員Ⅶ期による小3対応実務実習	7
15	12/18	木	9:00	小3対応展示準備	村上	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」展示(民家の台所)設営	6
16	1/7	水	14:30	小3対応準備	村上	小3対応常設展示解説「飯能の宝物」改定に伴うリハーサル	4
17	1/8	木	13:00	小3対応準備	村上	小3対応常設展示解説「飯能の宝物」改定に伴うリハーサル	1
18	2/8	日	9:00	小3対応展示付帯事業運営	宮島	「火のし・炭火アイロン/石臼体験」(10:00~15:00)運営	9
19	2/21	土	9:30	2月定例会	村上	小3対応反省会	11
20	2/28	土	9:45	当館主催事業運営	宮島	ミニ展示「ひなまつり」付帯事業「折り紙でつくるおひな様」(10:00~15:00)運営	11
21	3/1	日	9:45	当館主催事業運営	宮島	ミニ展示「ひなまつり」付帯事業「折り紙でつくるおひな様」(10:00~15:00)運営	5
22	3/18	水	9:30	3月定例会	村上	次年度の活動について	15

合計のべ人数 184人

当日の体験コーナーでの指導を、市民学芸員に依頼した。

名栗くらしの展示室の開設に関しては、平成26年1月の機織り機の移動に始まり、オープニングセレモニーに至るまで、市民学芸員の協力は大きな支えとなった。

### ◎古文書整理型(第Ⅵ期)の活動

「古文書整理(参加)型」の市民学芸員(第Ⅵ期)は、平成22年度に養成され当該年度は5年目にあたる。目ざす姿は、当館で収蔵している古文書を整理したり、翻刻したりする作業に、当館学芸員と共に参加し地域への理解を深め、市民にそれを伝えてもらうことである。

これまでは、矢嵐村中村家文書の中からテキ

ストを選び、参加者が割り当てられた場所を翻刻し発表する形で学習を進めてきた。4年が経過しだいぶくずし字にも慣れてきたので、当該年度の後半は、当館に寄託されている大字高山(旧武蔵国秩父郡高山村)の岩田陽一家文書の整理(表題とり)を行った。まだ誰もみていない史料に初めて触れる機会は魅力的なようで、読めない文字を教え合ったり、一緒に考えたりする姿が見られ、積極的に取り組んでいる様子がかがえた。

実務実習は、当館の歴史担当学芸員である尾崎が指導者となり、府中市郷土の森博物館等の見学や市内の巡見といった館外研修会3回を含む21回実施し(下表)、のべ192名が参加した。

### ○平成26年度市民学芸員(古文書整理型)活動一覧

(会場) 当館学習研修室(ただし、16・17回目のみ中央地区行政センター)

回	活動日	曜日	開始時刻	内 容	参加人数
1	4/10	木	10:00	4月例会①(矢嵐村中村家文書・文久2年矢嵐村御公用書写講読、年間活動計画について)	11
2	4/24	木	10:00	4月例会②(文久2年矢嵐村御公用書写講読、神田川クルーズについて)	9
3	5/15	木	10:00	5月例会①(文久2年矢嵐村御公用書写講読、神田川クルーズについて)	10
4	5/29	木	10:00	5月例会②(文久2年矢嵐村御公用書写講読、神田川クルーズについて)	10
5	6/12	木	10:00	6月例会①(高山村岩田家文書整理、神田川クルーズについて)	10
6	6/26	木	10:00	6月例会②(高山村岩田家文書整理)	9
7	7/17	木	10:00	館外研修会(地域めぐり②旧真能寺村巡見)	11
8	8/28	木	10:00	8月例会(文久2年矢嵐村御公用書写まとめ)	9
9	9/11	木	10:00	9月例会①(矢嵐村中村家文書・天保4年「差上申済口證文之事」講読)	10
10	9/18	木	10:00	9月例会②(矢嵐村中村家文書・天保4年「差上申済口證文之事」/「乍恐以書付御訴奉申上候」講読)	10
11	10/16	木	10:00	研修会(特別展「機屋の挑戦」展示解説)	9
12	10/30	木	10:00	10月例会(高山村岩田家文書整理)	6
13	11/13	木	10:00	11月例会(高山村岩田家文書整理)	6
14	11/27	木	9:00	館外研修会(地域めぐり③大字井上巡見)	9
15	12/11	木	10:00	12月例会(高山村岩田家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	8
16	1/15	木	14:00	1月例会①(高山村岩田家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	8
17	1/29	木	14:00	1月例会②(高山村岩田家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	8
18	2/19	木	10:00	2月例会①(高山村岩田家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	9
19	2/26	木	10:00	2月例会②(高山村岩田家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	10
20	3/12	木	8:15	館外研修会(府中市郷土の森博物館、ふるさと府中歴史館見学)	11
21	3/26	木	10:00	3月例会(高山村岩田家文書整理、深谷克己『江戸時代』輪読)	9

合計のべ人数 192人

# 市民学芸員養成講座

## 第Ⅶ期(博学連携事業参加型4期)・Ⅷ期(麦作文化探求型)

### 1 趣 旨

市民学芸員は、博学連携事業参加型(以下「博学連携型」とする)と、古文書整理型(以下「古文書整理」とする)の二つが活動している。

博学連携型市民学芸員は、主に毎年1・2月における小学3年生の郷土館見学にて講師を担当し、当館における博学連携事業の中で重要な役割を担っている。また、古文書整理の市民学芸員は自らが古文書について学習するとともにその知識を史料の整理や翻刻に生かすことを目的として活動している。このように、当館において市民学芸員は、当館の事業の内容を維持・向上する上で、非常に大きな存在と言える。

ただ、博学連携型市民学芸員は高齢化などが理由で、実質的に事業に携わる者が年々減少し、定期的な養成が必要とされる。そこで、博学連携型市民学芸員について、平成22年度の実施に続き4度目の養成を行った(第Ⅶ期)。

また、近年、市民の中で、市域における麦を主体とした粉食文化が注目され、体験学習のニーズが高まっている。その一方で、当館においても麦作・麦食文化の調査と、市民に対する体験講座開催の必要性が意識されていた。そこで、市域の麦作文化について調査するとともにそれに関する体験学習の指導者となることを目標に、麦作文化探求型(以下「麦作文化型」)の市民学芸員を新たに養成した(第Ⅷ期)。

### 2 養成講座のカリキュラム

養成講座の内容は博物館学分野および専門分野で構成される。博物館学分野は全5回で、博物館学の基礎的な知識を習得することを目的とする。「博学連携型」「麦作文化型」とも同内容で実施し、すでに市民学芸員に認定されている者については、受講は免除した。

専門分野は「博学連携型」、「麦作文化型」に分かれて実施した。「博学連携型」では、博物館と学校との連携のあり方、小学生の発達段階、小学3年生見学対応についての講義および館外視

察研修を受けた後、小学3年生見学対応の実務実習を行った。「麦作文化型」は麦作文化および麦づくりの方法等についての講義および館外視察研修を受けた後、麦づくりの実務実習を行った。

### 3 成 果

募集人員は「博学連携型」20人、「麦作文化型」15人であり、前者が12人、後者に19人の応募があった。講座7割以上出席者で、市民学芸員としてふさわしいと認められた者を市民学芸員と認定し、「博学連携型」は2月21日に、「麦作文化型」は3月7日に認定証を交付した。認定者は「博学連携型」11人、「麦作文化型」18人で、このうち両方を兼ねた者が2人、「麦作文化型」のうち第Ⅱ期～第Ⅵ期の市民学芸員として活動中の者が10人含まれている。



市民学芸員養成講座風景



麦作文化探求型市民学芸員養成講座実務実習



○市民学芸員第Ⅶ期（博学連携事業参加型4期）養成講座カリキュラム

回	日付	曜日	開始時刻	分野	内 容	講師・担当	備 考	参加人数
1	5/18	日	14:00	博物館学	日本の博物館の現状と役割	駿河台大学教授 野村正弘 氏	第Ⅶ期(麦作文化探求型)と合同	12
2	6/1	日	14:00	博物館学	博物館の資料と情報	桜美林大学准教授 金子 淳 氏	第Ⅶ期(麦作文化探求型)と合同	11
3	6/8	日	14:00	博物館学	博物館と教育	駿河台大学教授 野村正弘 氏	第Ⅶ期(麦作文化探求型)と合同	11
4	6/29	日	14:00	博物館学	地域博物館とまちづくり	桜美林大学准教授 金子 淳 氏	第Ⅶ期(麦作文化探求型)と合同	8
5	7/6	日	14:00	博物館学	飯能市郷土館の運営方針と市民学芸員の役割	館長	第Ⅶ期(麦作文化探求型)と合同	10
6	7/20	日	8:30	養成テーマ	館外研修 世田谷区次大夫堀公園民家園	館長		9
7	9/21	日	14:00	養成テーマ	小学生の発達段階	飯能第一小学校校長 山下利明 氏		10
8	9/28	日	14:00	養成テーマ	博学連携事業のあり方	入間市博物館指導主事 山元丈司 氏		12
9	10/5	日	14:00	養成テーマ	「昔の道具調べ」の学習の内容と目的	南高麗小学校教諭 菱 吉信 氏		8
10	10/19	日	14:00	実習	実務実習ガイダンス	館長		10
11	11/19	水	9:30	実習	小学3年生見学対応実務実習	館長		10
12	12/16	火	9:30	実習	小学3年生見学対応実務実習	村上		7

合計のべ人数 118人

○市民学芸員第Ⅷ期（麦作文化探求型）養成講座カリキュラム

回	日付	曜日	開始時刻	分野	内 容	講師・担当	備 考	参加人数
1	5/18	日	14:00	博物館学	日本の博物館の現状と役割	駿河台大学教授 野村正弘 氏	第Ⅶ期(博学連携事業参加型)と合同	7
2	6/1	日	14:00	博物館学	博物館の資料と情報	桜美林大学准教授 金子 淳 氏	第Ⅶ期(博学連携事業参加型)と合同	7
3	6/8	日	14:00	博物館学	博物館と教育	駿河台大学教授 野村正弘 氏	第Ⅶ期(博学連携事業参加型)と合同	8
4	6/29	日	14:00	博物館学	地域博物館とまちづくり	桜美林大学准教授 金子 淳 氏	第Ⅶ期(博学連携事業参加型)と合同	7
5	7/6	日	14:00	博物館学	飯能市郷土館の運営方針と市民学芸員の役割	館長	第Ⅶ期(博学連携事業参加型)と合同	8
6	7/27	日	14:00	養成テーマ	「種から食卓まで」① 関東地方の麦文化	川崎市文化財審議会委員・ 元立教大学兼任講師 増田昭子 氏		18
7	8/24	日	14:00	養成テーマ	「種から食卓まで」② 日本の麦文化	川崎市文化財審議会委員・ 元立教大学兼任講師 増田昭子 氏		17
8	9/7	日	14:00	養成テーマ	小麦の栄養	女子栄養大学 栄養科学研究所教授 根岸由紀子 氏		16
9	9/14	日	14:00	養成テーマ	麦づくりのポイント	埼玉県農林総合研究センター 水田農業研究所次長 戸倉一泰 氏		17
10	10/12	日	13:30	実習	畑の耕作・整備 (1)	館長		13
11	10/18	土	13:30	実習	畑の耕作・整備 (2)	館長		12
12	10/29	水	13:30	実習	畑の耕作・整備 (3)	館長		16
13	11/5	水	13:30	実習	畑の耕作・整備 (4)	館長		12
14	11/8	土	13:30	実習	大麦種蒔き	館長		15
15	11/15	土	13:30	実習	小麦種蒔き	館長		15
16	11/23	日	8:30	実習	館外研修 行田市博物館企画展 「麦の文化誌」見学	館長		17
17	12/18	木	13:30	実習	今後の作業についての打ち合わせ、 麦踏み、麦こがし作り	館長		16
18	1/14	水	13:30	実習	麦踏み	館長		13
19	2/1	日	13:30	実習	麦踏み、サクキリ、施肥	館長		12
20	2/17	火	9:30	実習	ゆでまんじゅうとやきもちづくり、 麦踏み、麦の土入れ	館長		12
21	3/7	土	13:30	実習	麦の土入れ	館長		13
22	3/19	木	13:30	実習	平成27年度の活動方針打合せ、 麦の土入れ	館長		11

合計のべ人数 282人

博物館と学校教育との連携は、県内でも戸田市郷土博物館や川越市博物館などに指導主事が配置され、積極的に行われてきた。本市においては、平成10(1998)年に告示され、平成14年度から実施された学習指導要領に基づく「総合的な学習の時間」の導入以降、出張授業の依頼が増え、格段に深まったといえる。しかし、現行の学習指導要領による「総合的な学習の時間」の授業時間数の削減により、出張授業や当館に来館しての学習の数は、一時期と比較し減少したままの状況である。これを打開するには、学校での教科学習において活用できるプログラムや資料を、当館がどれだけ用意できるかにかかっていると見えよう。

なお、当館では学校への資料の貸出も行っているが、それは「収蔵資料の利用」(37～40ページ)に含めた。

## 小学3年生見学対応

戦後8度目の改訂となる現行の学習指導要領は、小学校においては平成23年から全面実施されている。このうち、社会科の第3学年の学習内容のうちの一つは、

(5) 地域の人々の生活について、次のことを

見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例と定められている。

これに対応するものとして、本市では「市の人々のくらしのうつりかわり」の単元が設けられている。それを受けて当館では、例年1月から2月にかけて市内の小学3年生が社会科の「昔の人々とくらし」の単元で地域学習をする中で、その時期にあわせて「むかしのくらし」展を開催し、市民学芸員とともに下記のプログラムを実施している。このうち、①常設展示見学の中の「飯能の宝物」



石臼体験の様子

(国指定重要文化財「長光寺雲版」「常楽院軍荼利明王立像」と、西川材(県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」)の解説が学習指導要領で挙げられている学習内容のイに、それ以外がアに向けたものと位置付けられる。

また、本事業は市民学芸員中心で行われているが、このような実施のあり方になったのは平成14年度からである。そして社会科副読本『はんのうし』は、平成23・24年度版より、該当する部分が当館の見学プログラムに準拠した内容に改められた。

当該年度においては、9月22日付で各小中学校宛てに見学希望日や人数などを把握するための調査票を配布した。その後10月16日から11月21日にかけて当館にて先生方との打ち合わせを行い、見学内容や移動手段などについて協議した。

当館までの移動手段は、平成21年度以来、市のバス2台を中心に、足りない部分は民間事業者から乗合バスを借り上げて確保している。

当日は、クラスを複数の班に分け、同時並行で行われる3つのプログラムを、それぞれの班が事前に決められた順序で回っている。1つのプログラムの時間は通常40分で、人数の多いクラスの場合は45分である。決められた時間枠の中で、全てのプログラムが体験できるように、予定が組まれている。

3つのプログラムの内容は、次のとおりである。

### ①常設展示見学

小学校は3つの説明・体験のうち、2つを選択することができる。一つは常設展示の「乱世に生きぬく(中世)」のコーナーにおける、長光寺雲版と常楽院の軍荼利明王立像を中心とした、国指定重要文化財の説明(宝物)、二つ目は「山地のくらし(民俗)」のコーナーにおける西川材に関する

る説明(林業)、三つ目が「平地のくらし(民俗)」のコーナーにおける、昔の子どもの遊びの解説と紙芝居の体験(紙芝居)である。

### ②むかしの道具さがしクイズ

これは、学習研修室に20点の民具を4箇所に分けて置き、児童がそれら全てを観察したり触れたりした後、その中から洗濯、炊事、学校生活、暖房に使う道具を見つけるという、クイズ形式の学習である。最後に児童に正解を伝え、道具の使い方を説明する。

### ③体験学習

石臼と昔のアイロンの体験を行う。

石臼体験は、休憩コーナーに設置した石臼台で、児童が米とこがし麦(炒った大麦)を挽き、粉にするというものである。

昔のアイロンの体験は、児童が特別展示室に再現した民家の台所の一画にある板の間に上がり、

実際に火のしと炭火アイロンを用いてアイロンがけをする。体験の順番を待っている時間は、土間部分にある水場やかまど、昔の農具などの見学や、背負梯子・背負かごの体験なども出来る。

学校の先生には、見学終了後にアンケートの提出をお願いしており、それらを踏まえた上で市民学芸員と反省会を行い、次年度への改善に活かしている。



むかしの道具さがしクイズに夢中の児童

## ○平成26年度小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	クラス数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	常設展示選択
1	1/15(木)	美杉台小	2	79	借上バス2台	9:09	12:03	174	12	宝物・紙芝居
2	1/16(金)	精明小	1	21	市バス	9:10	11:50	160	14	宝物・紙芝居
3	1/20(火)	加治小①	1	34	借上バス	9:01	11:46	165	12	宝物・紙芝居
4	1/21(水)	原市場小	2	41	市バス2台	9:00	11:51	171	12	宝物・紙芝居
5	1/22(木)	加治東小	1	25	市バス	8:59	11:32	153	9	宝物・林業
6	1/23(金)	加治小②	2	64	市バス2台・庁用車	8:53	11:46	173	11	宝物・紙芝居
7	1/27(火)	飯能二小	1	15	市バス	8:59	11:40	161	11	宝物・紙芝居
		名栗小	1	6						
8	1/28(水)	富士見小①	2	55	市バス2台	9:04	11:46	162	12	宝物・紙芝居
9	1/29(木)	東吾野小	1	3	市バス	8:57	11:30	153	9	宝物・紙芝居
		西川小	1	6						林業・紙芝居
10	1/30(金)	富士見小②	1	27	市バス	8:57	11:50	173	8	宝物・紙芝居
		南高麗小	1	11	市バス	9:07		163		
11	2/3(火)	双柳小	2	70	借上バス2台	9:02	11:52	170	14	宝物・紙芝居
12	2/5(木)	飯能一小①	2	68	徒歩	9:15	12:00	165	12	宝物・紙芝居
13	2/6(金)	飯能一小②	1	35	徒歩	9:07	11:50	163	11	宝物・紙芝居

合計 13校 合計児童数 560人

市民学芸員のべ人数 147人

## 飯能市小・中学校社会科研究展

### 1 趣 旨

小・中学校では、夏季休業中に色々な教科で自由研究の課題が出される。このうち、理科や技術家庭科、美術科ではその作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているのに対し、

社会科には学校の外でその成果を発表する場が無いのが現状である。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、中にはとても質の高い研究成果も見受けられる。このような作品を地域の博物館で公開し、多くの人に見てもらうことは

大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より行っているのが本事業である。

当初は中学生だけが出品していたが、平成13年度より対象を小学生まで広げ、平成22年度からは出品された研究の中から館長賞及び学芸員賞を選ぶこととした。各賞の選考は、下に掲げた基準で行っている。また平成23年度より、各学校において社会科の研究に該当するものかどうかを見極めるとともに、ある程度のレベル以上のものを選んで出品してもらうため、在籍児童生徒数によって学校ごとの出品上限数を定めている。

なお、保護者が仕事帰りに見に来ることが出来るようにするため、会期中の金・土曜日は開館時間を午後7時まで延長した。

#### [選考基準表]

特別賞の基準は以下のとおり

##### ○郷土館長賞

学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学校1点ずつ。

##### ○学芸員賞

- ・地域を対象としている。
- ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。
- ・児童生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
- ・調査結果がわかりやすくまとめられている。
- ・その他賞を与えるにふさわしいと判断された作品

以上に該当する作品で、小・中学校合わせて計4点まで。

なお、作品が展示された全ての児童生徒には、毎年賞状と参加賞が贈られている。

## 2 展示概要

期 間：平成26年9月13日(土)～9月28日(日)

開館日数：13日間

入館者数：1,726人(1日平均132.7人)

展示点数：小学生 116点

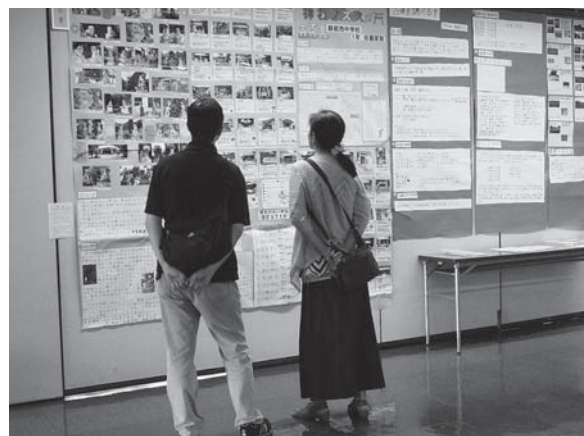
うち郷土館長賞1点、学芸員賞2点

中学生 38名

うち郷土館長賞1点、学芸員賞2点



展示風景 (小学校)



展示風景 (中学校)

## 出張授業

市内の小中学校からの依頼により、当館学芸員が学校に出向いて授業を行う出張授業も、学校と連携した重要な事業である。児童・生徒が地域学習をする中で、地域のことを専門に調査・研究している学芸員から話を聞くことは、子どもたちの関心を高める効果大きい。

授業の内容としては、これまでは「総合的な学習の時間」における地域学習の導入として、地域の歴史の概要や調べ方を説明するものが多い。

平成24年度には教科学習の依頼がなくなったが、平成23年度に発行された飯能市郷土学習資料『私の誇るふるさと飯能』を活用した授業(道徳)を初めて実施している(ただし教員とのチーム・ティーチング)。

なお、例年依頼がある授業については、児童・生徒の反応等を参考にしながら、教材を替えるなどして適宜その改善に努めている。

No.	実施日	学 校 名	学年	科目	テ ー マ	内 容	担当	人数
1	6/3(火)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の製作体験	縄文土器について解説をしたあと、実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成した。	村上	79
2	7/10(木)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の焼成体験	6月3日に各自で製作した土器を、校庭で焼成する指導をした。	村上	79
3	9/1(月)	加治小学校	3	総合	「加治のじまんを見つけよう」	総合的な学習の時間における、地域学習。	尾崎	101
4	11/6(木)	加治中学校	1	総合	「飯能木のまち山のまち」	学習林活用事業の一環として、林業のまち飯能の歴史や、飯能市の繁栄を担った林業の功績等を説明した。	尾崎	76
5	11/12(水)	飯能第一小学校	5	総合	「飯能戦争」	飯能戦争についての資料の提供	尾崎	70
6	2/4(水)	名栗小学校	3・4	社会	「さわろう！かながえよう！むかしの林業の道具」 名栗くらしの展示室の見学	名栗地区行政センターの和室に林業の道具を並べ、何に使われたかを考えた。道具の使い方を説明し、児童が使うまねをした。その後、くらしの展示室の見学説明をした。	館長 村上	13

合計人数 418人

## 来館しての学習

当館の学芸員が学校に出向いて行うのが出張授業であるのに対し、それとは逆に、学校の児童・生徒が特定のテーマを学習するために来館することもある。その代表的なものは毎年1～2月に実施している小学3年生見学対応であるが(33ページを参照)、それ以外にも下の表のような学習を

目的とした見学があった(調べ学習等のために数人で来館した見学やレファレンス等は除く)。

来館しての学習は、出張授業と比べるとより多くの収蔵資料や展示資料を活用できる利点があるが、学校から当館までの交通手段の確保に問題があり、その機会は増えていない。

No.	実施日	学 校 名	学年	科目	テ ー マ	内 容	人数
1	4/25(金)	飯能第一小学校	5	総合	収蔵品展見学と「一小周辺の古いものと方言」	収蔵品展を見学した後、研修室で学校周辺の「古いもの」と方言について概要を説明した。(2日に分けて実施)	62
	5/1(木)						60

合計人数 122人

## 中学生社会体験チャレンジ

本市の中学1年生は、勤労の尊さや働く意義を学び、正しい職業観を身につけるために、市内の事業所や公共機関等で3日間、職場体験をする「中学生社会体験チャレンジ事業」に参加する。

当館でも毎年生徒を受入れ、博物館の業務を体

験してもらっている。外から見ただけではわからない裏方の作業を体験することにより、その大変さや喜びを実感してもらうだけでなく、当館の役割や学芸員の仕事の内容を、本人はもちろんその保護者に伝えることにも役立っている。

No.	実施期間	学 校 名	人数	内 容
1	11月18日～20日	加治中学校	2	館内外の清掃、収集資料の整理
2	12月3日～5日	飯能西中学校	2	館内外の清掃、小学3年生社会科見学用学習ノートの製本
3	12月9日～11日	美杉台中学校	3	館内外の清掃、特別展撤収作業、旧図書館棚分解・移動作業
4	1月21日～23日	飯能第一中学校	3	館内外の清掃、小学3年生社会科見学対応の補助、資料梱包材の作成、郷土館リーフレット作成、整理室の片付け、民具の整理など

合計人数 10人

## 収蔵資料の利用(閲覧・貸し出し)

当館の収蔵資料は、当館主催の展示会や講座、学習会などに使われるほか、資料を劣化させない範囲で市民や学習サークルなどの団体の利用に供している。平成26年度は105件の利用があった。

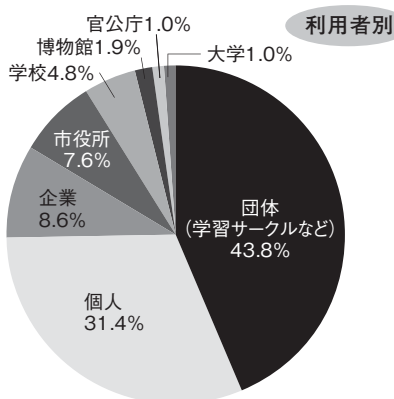
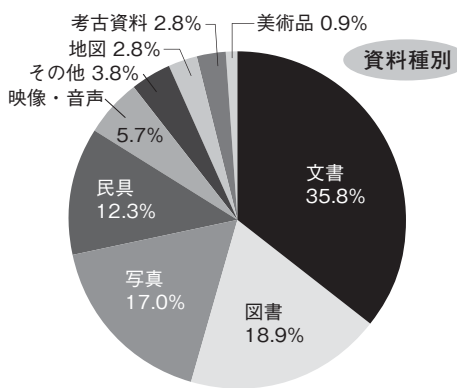
前号の館報にて、平成16年度以降10年間の資料利用を概観したが、利用されている資料の種別は4割強が古文書を中心とする文書、写真と図書がそれぞれ2割弱であり、これらを合わせると資料利用の9割を占めることを指摘した。これにより当館は、利用の実態としてアーカイブスの機能が多く活用されており、「文書館機能を有する博物館」とであると結論付けた。

下のグラフで示したとおり平成26年度においても、利用された資料の種別は古文書等が4割弱、写真と図書がそれぞれ2割弱で、合わせると約7割である。先述したここ10年の傾向を逸脱するものではない。文書・写真・図書に次いで利用されているのは民具である。1割強の利用を占める。

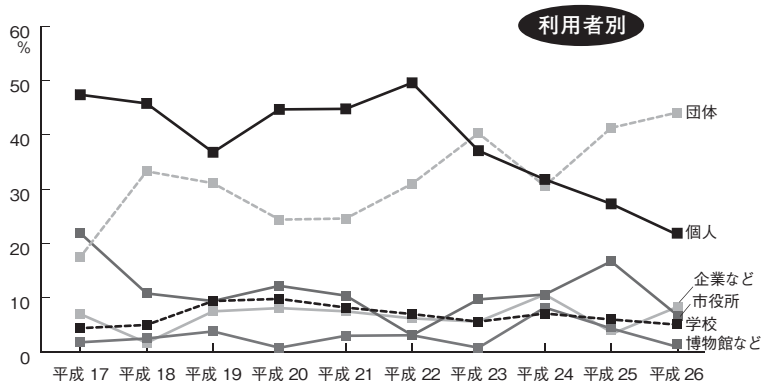
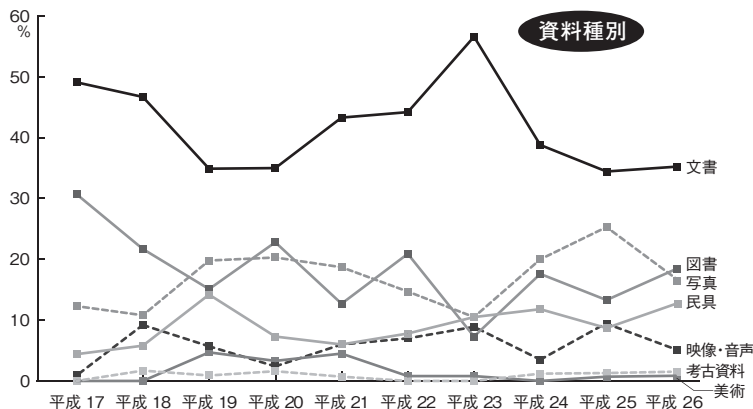
利用者別の内訳については、これも前号の館報で、学習サークルなどの団体利用が3割弱を占め、増加傾向にあるのに対し、個人の利用が逡減傾向にあること、そして、飯能市役所職員の利用も徐々に増えてきていることを指摘した。

平成26年度をみると、団体利用が4割強、個人利用は約3割で、やはりここ10年の傾向と同様である。企業の利用が個人の次に多いが、昨年度(4.0%)よりは多いものの、10年間の横這い傾向が依然続いていると捉えられる。横這いと言えば学校も同様で、学校教育での利用機会をいかに増やすかは、やはり課題として残されたままである。

平成26年度の資料利用



10年間の資料利用



○平成26年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	須田家文書「丑日記」	1	古文書同好会	不鮮明箇所確認	4/5
2	DVD「奥武蔵“みんなよう”物語」	1	エコツアーリズム活動市民の会	エコツアーリズム準備	4/9～5/8
3	須田家文書「子日記」	1	古文書同好会	古文書翻刻	4/11
4	須田家文書「丑日記」	1	古文書同好会	古文書翻刻	4/16
5	砲弾	1	自由の森学園高等学校	日本史の教材	4/23～5/13
6	『20年のあゆみ』など	2	個人	(無記入)	4/27
7	『武州高麗郡中山村記録』	1	個人	研究	4/29
8	レコード「高山音頭・富岡小唄」	1	「飯能の“みんなよう”」保存会	新民謡の調査	5/2
9	須田家文書「丑日記」	1	古文書同好会	古文書翻刻	5/3
10	「神社明細帳」など	4	個人	調査	5/16
11	特別展図録「山上の霊地」など	5	個人	子ノ権現参道ハイキング	5/17～5/18
12	特別展図録「大地に刻まれた飯能」掲載写真データ	1	古代の人間を考える会	古代人間の会研究資料集への掲載	5/18
13	『飯能市史資料編Ⅸ 地名・姓氏』	1	個人	市民学芸員現地見学会準備	5/29～8/28
14	『写真集 飯能市の昭和史』など	2	個人	郷土学習(飯能第一小学校周辺の古い物さがし)	5/30
15	『飯能の民家』	1	個人	宿題	5/31
16	『武陽山 能仁寺』など	3	個人	宿題	5/31
17	須田家文書「寅日記」など	2	古文書同好会	教材のための古文書コピー	6/7
18	写真データ [さようなら蒸気機関車「八高号」]	1	美杉台地区行政センター	事業案内に掲載	6/11
19	ペーゴマ など	4	地区行政センター管理課	名栗くらしの展示室オープニングイベント	6/13
20	『飯能の民踊』	1	個人	大学課題	6/14
21	カセットテープ「飯能殿山音頭」	1	個人	大学課題	6/15
22	玉子焼 など	2	個人	飯能西中学校出前授業の教材	6/17～6/25
23	写真データ「リュウガイ城本郭」など	2	毎日新聞	リュウガイ城の紙面紹介	6/20
24	「飯能の西川材関係用具」集合写真	1	一般社団法人日本森林技術協会	『森林技術』7月号掲載	6/20
25	須田家文書「寅日記」など	2	古文書同好会	古文書の翻刻	6/21
26	須田家文書「卯日記」～「申年日記」(コピー)	6	古文書同好会	テキスト候補予備調査	6/25～6/26
27	須田家文書「巳日記」～「申年日記」	4	古文書同好会	テキスト候補予備調査	6/25～6/27
28	名栗村議会だより	1	飯能市役所議会総務課	旧名栗村議員の経歴調べ	6/26～6/27
29	写真データ「石灰焼場跡」	1	岡山大学大学院環境生命科学研究科	学術情報データベース「近世以前の土木・産業遺産の全国調査」作成のため	6/27
30	須田家文書「酉年日記」～「辰日記」(コピー)	8	古文書同好会	テキスト候補予備調査	6/27
31	須田家文書「甲子日記」～「辰日記」(コピー)	5	古文書同好会	テキスト候補予備調査	6/27～6/29
32	鉢形土器など	15	加曾利貝塚土器づくり同好会	縄文土器復元のため	7/6
33	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書学習	7/19
34	西川林業コーナーの写真	1	個人	宿題	7/20
35	岡部とよ子家文書「秩父木炭同業組合事件演説要旨」など	80	個人	研究	7/21～2015 6/30
36	『飯能の民踊』	1	個人	飯能の民謡研究	7/26
37	写真「中藤小教室にて4年生と先生」など	5	個人	社会科研究	8/2

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
38	尖頭器	1	個人	関東地方における石器研究の一環	8/6
39	『飯能郷土史』	1	個人	研究	8/10
40	図録『飯能炎上』	1	個人	宿題	8/12
41	「県指定文化財指定申請書 [一式]」など	2	個人	調査	8/21～9/30
42	『日本城郭大系 5 埼玉東京』	1	個人	研修	8/23～8/24
43	「征矢明神鳥居修復諸入用帳」など	4	個人	調査・研究（征矢神社関係）	8/26
44	岩沢出土石槍	1	岩宿博物館	第58回企画展での展示、及び図録作成のための写真撮影	9/5～1/9
45	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書翻刻	9/6
46	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書翻刻	9/12
47	1/10,000都市計画図	1	個人	郷土研究	9/15
48	『中世北武蔵の城』	1	個人	研究	9/18
49	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書翻刻	9/20
50	加藤英家「御尊判御願日記」など	3	古文書同好会	次回テキスト選定	9/20
51	原田雅義家「汽車発着時刻并ニ賃金表」	1	青梅市郷土博物館	展示及び図録への写真掲載	9/26～12/28
52	くだまき	1	飯能第一小学校	国語科授業の教材	9/30～11/6
53	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	テキスト	10/4
54	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	10/4
55	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	10/10
56	加藤英家「御尊判御願日記」など	3	古文書同好会	複写及び閲覧	10/10
57	脱穀機など	4	はんのう市民環境会議	稲こき	10/12～10/13
58	写真データ「伐採(1)」など	9	有限会社大悠社	学研教育出版発行『くらべる100年「もの」がたり』への写真掲載	10/15
59	森田永雲作囃子面一式	5	飯能市役所 市民参加推進課	飯能まつり展に展示	10/17～11/5
60	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	10/18
61	平成21年3・4月今月の一品写真(ノート)など	2	有限会社大悠社	学研教育出版発行『くらべる100年「もの」がたり』への写真掲載	10/21
62	飯能村絵図	1	活動市民の会	飯能第一小学校総合学習の資料	10/24
63	刀「武州正丸住小沢正寿作」など	2	飯能刀剣会	日本刀の鑑賞、学習	10/25
64	『飯能戦争秘話』	1	個人	横手の探索	10/25
65	カセットテープ「名栗川愛唱歌集」	1	老人クラブ宝生会	入間市芸能大会の踊りで使用	10/29
66	写真パネル「岩沢見晴下の橋上に於ける茶摘みかへり」など	5	入間市立金子公民館	金子地区文化財で展示	10/30～11/5
67	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	11/1
68	写真データ「内藤町遺跡出土飯能焼写真」など	3	飯能市役所生涯学習課	出前講座資料	11/7
69	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	11/14
70	さいたまりそな展示写真 など	38	飯能市立図書館	県立図書館巡回資料展展示	11/14～11/19
71	写真データ「入間川上流での筏流し」	1	法政大学出版局	陣内秀信・高村雅彦編「水都学Ⅲ」口絵掲載	11/20
72	須田家文書「寅日記」	1	古文書同好会	古文書の翻刻	11/29
73	小槻家文書「製品柄割」など	14	埼玉民俗の会	研究会・見学会	11/30
74	江戸ヅマ(花嫁衣裳)など	9	「飯能の“みんよう”」保存会	特別展協賛事業で会場にて閲覧のため	12/5
75	写真データ「入間川上流での筏流し」など	2	NHKさいたま放送局	テレビ番組「小さな旅・飯能」制作・放映のため	12/16



No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
76	羽子板	1	飯能市市民活動センター	市民活動センターお正月展展示	12/19～1/17
77	ビデオ時の記憶「記録写真のすすめ」など	2	株式会社金聖堂情報システム	デジタル化サンプル作成のため	1/14～2/3
78	機織り	1	個人	エコツアー企画のためのテスト	1/19
79	くだまき	1	原市場小学校	国語科授業の教材	1/20～2/5
80	手回し式洗濯機など	4	南高麗小学校	社会科授業の教材	1/21～1/27
81	写真資料カード「筏流し」など	4	テレビマンユニオン	BS朝日「緑のコトノハ」制作のため	1/22
82	『仏像の再発見』	1	個人	研究	1/27～3/31
83	田中鎮次家文書「色々御口出し致度ニ付書状」など	18	やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト	研究	1/29
84	写真データ『名栗の歴史(上)』口絵「1. 上空から見た名栗地域」など	15	飯能市役所生涯学習課	『文藝飯能』への掲載(グラビア写真)	1/29
85	『埼玉の神社』など	3	個人	歴史と味巡りマップ制作	2/3
86	『飯能の伝説』	1	個人	郷土を知るため	2/3
87	『飯能第一小学校創立九十五年と防音校舎完成記念誌』など	2	個人	美杉台小学校3年生出張授業準備	2/4～2/7
88	旧平岡レース食堂棟、事務所棟パネル	4	飯能の文化遺産を活かす会	ひな飾り展まちかどギャラリーに展示	2/11～3/10
89	双木利夫家文書「東海道平塚大磯両宿当分助郷御免除再願御差出願」	1	古文書同好会	講読確認	2/14
90	写真データ「背守り写真」など	4	株式会社レイ・プロデュースカンパニー	「西武ニュース3月号」にて掲載	2/16
91	双木利夫家文書「慶応二丙寅年二月廿六日東海道平塚宿より御印状を以…押て嘆願書差上ケ始末柄委細諸控」	1	古文書同好会	講読テキストの選定	2/20
92	双木利夫家文書「東海道平塚大磯両宿当分助郷御免除再願御差出願」	2	古文書同好会	講読	2/20
93	藤田堀の写真記録	1	飯能高等学校環境科学部	調査	2/21
94	くだまき	1	美杉台小学校	国語科授業の教材	2/26～3/5
95	江戸ヅマ(花嫁衣裳)など	3	「飯能の”みんなよう”」保存会	うちおりの花嫁衣裳と「はたおり唄」で展示するため	2/27
96	写真データ「飯能の西川材関係用具」	1	農林水産省林野庁	「森林・林業白書」の発行	2/27
97	双木利夫家文書「慶応二丙寅年二月廿六日東海道平塚宿より御印状を以…押て嘆願書差上ケ始末柄委細諸控」など	2	古文書同好会	購読テキストの選定・確認	2/28
98	『紙の上の世界』など	4	個人	閲覧	3/4
99	双木利夫家文書「慶応二丙寅年二月廿六日東海道平塚宿より御印状を以…押て嘆願書差上ケ始末柄委細諸控」	1	古文書同好会	講読資料	3/5
100	双木利夫家文書「慶応二丙寅年二月廿六日東海道平塚宿より御印状を以…押て嘆願書差上ケ始末柄委細諸控」など	2	古文書同好会	講読資料	3/7
101	小川久雄家文書「飯能時報第4号」	1	個人	研究	3/7
102	ビデオテープ「飯能の絵馬師「小槻正信」木地板から」など	21	株式会社金聖堂情報システム	ビデオテープデジタル化のため	3/12～3/31
103	双木利夫家文書「東海道平塚大磯両宿当分助郷御免除再願御差出願」など	4	古文書同好会	講読確認、複写	3/13
104	機織唄説明パネル	2	個人	私たちの周りの絹遺産展示用	3/15～3/18
105	国土地理院旧版地図川越(大正2年10月30日発行)など	2	個人	飯能検定の調査	3/29

# 施設の利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成26年度は、特別展示室・図書室の利用申請はなかった。

学習研修室は、講座・学習会や定点撮影プロジェクト、市民学芸員といった交流事業など当館の主催事業のほか、市内の小学生や市外からの団体の見学、あるいは資料の閲覧などにも使用されている。また、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる学習活動を行っている団体、サークルなどに貸出を行なっている。

年間を通しての学習研修室の利用率(日単位)は59.7%で、最もパーセンテージが高いのは土曜日(68.6%)、次いで木曜日(66.0%)である。

## ○平成26年度学習研修室利用実績

利用種別	年度	平成24(2012)年度		平成25(2013)年度		平成26(2014)年度	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数
団体等の利用	恒常的活動(学習サークル)	69	934	92	1,413	67	1,270
	見学・閲覧	8	12	16	265	9	199
	他団体の主催事業等	16	277	6	82	10	154
	小計	93	1,223	114	1,760	86	1,623
当館の主催事業		77	1,487	78	1,371	96	1,373
合計		170	2,710	192	3,131	182	2,996
年間利用日数		147日		173日		203日	

## ◎主な活動団体

古文書同好会・多聞の会(仏教美術学習会)・石仏談話会・飯能郷土史研究会・「飯能の“みんなよう”」保存会・ずいひつの会

### ◎平成26年度末現在で活動している学習サークル

#### 古文書同好会

設立 平成3(1991)年4月

目的 飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及びその活字化。

代表者 中里 和夫

会員数 23人

活動 毎月第1土曜日・第2金曜日・第3土曜日

代表者 浅見 初枝

会員数 10人

活動 毎月第2土曜日

#### 飯能郷土史研究会

設立 昭和48(1973)年7月

目的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。

代表者 坂口 和子

会員数 79人

活動 年6回の例会

#### 多聞の会(仏教美術学習会)

設立 平成6(1994)年11月

目的 仏像・仏画・仏教建築など広く仏教及び仏教美術について広く学習する。

代表者 綾部 光芳

会員数 23人

活動 毎月第3木曜日

#### 「飯能の“みんなよう”」保存会

設立 平成8年(1996)年

目的 民踊をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。

代表者 石井 英子

会員数 26人

活動 不定期(原則 第1金曜日)

#### 石仏談話会

設立 平成7(1995)年1月

目的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。

# レファレンスの対応

当館には、様々な問合せが寄せられる。質問の手段は、窓口で直接質問される場合をはじめとし、電話や、電子メールなどがある。

内容は、観光情報や文化財の所在地といったその場で答えられるものから、資料の有無や地域の歴史を掘り起こすものなど、回答に時間がかかるものまで様々である。このうち当該年度において、その場で回答できた事例についてまとめてみると、手段は窓口が約74%、電話が約26%で、窓口での1件あたりの対応時間の平均は8.4分、最長45分、電話では平均8.8分、最長30分であった。照会者は大人が8割を占め、子ども(小・中学生)が約16%である。内容でみてみると、本市域の歴史事象にかかわるもの(右表の「地域」)が約72%、当館の「事業」に関わるもの約3%、「観光」案内の類が約20%であった。

また、回答に時間がかかった場合は、その経過や回答内容などを「レファレンス対応記録票」に記入している。その理由は、それが特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じよ

うな問合せがあった場合の時間や作業の無駄を省くためである。平成26年度にてレファレンス対応記録票に記入された内容は下表のとおりであるが、電子メール(E-mail)での問合せが平成25年度の件数(10件)とほぼ同数の11件(35.5%)である。前年度(43.4%)と同様に4割程度を占めており、電子メールでの問合せは手段として定着したといえる。

## 【照会者別】

照会者	窓口	電話	合計
一般(高校生以上)	122	22	144
子ども(小・中学生)	30	0	30
職員	0	8	8
その他	3	2	5
総計	155	32	187

## 【内容別】

照会者	窓口	電話	合計	割合
地域	111	23	134	71.7%
事業	3	3	6	3.2%
観光	34	4	38	20.3%
その他	7	2	9	4.8%
総計	155	32	187	

## ○平成26年度レファレンス対応記録一覧

No.	照会日	内 容	回答日	照会者	手段
1	4/18	浅草寺の観音像と岩井堂に関わる資料について	4/18	一般	電話
2	4/23	原市場地区の十王堂の場所について	4/23	市職員	来館
3	5/9	西川材の筏流しについて	5/10	市職員	E-mail
4	5/17	岩沢にある神社の社号は「白髪白山」か「白鬚白山」か	5/21	一般	電話
5	4/10~6/4	昭和31年12月28日の飛行機墜落事故及び犠牲者(岩田丹治氏)の供養寺について	4/26~6/20	一般	E-mail
6	5/13	昭和23年6月の皇太后の来館について	6/6	一般	来館
7	6/10	飯能市域における絵馬について	6/13	一般	文書
8	6/10	「吾野機織り唄」の歌詞(合いの手)の意味について	6/12	一般	FAX
9	5/15	先祖の大河原村中里重作、武之助について知りたい	6/20	一般	電話
10	7/24	母の故郷が知りたい	8/30	一般	E-mail
11	8/1	ミョウガ葉縄の作り方について	8/9	一般	E-mail
12	7/25	伊古田純道の帝王切開関係資料について	8/13	一般	E-mail
13	6/25	当館所蔵のあけぼの子どもの森公園建設に関わるトーマス・ヤンソン書状について	8/7	一般	E-mail
14	5/15	割れ岩周辺が観光地であったことを示す写真について	8/17	小学生	電話
15	8/22	精明地区の昭和20年の爆弾投下の様子について知っている人はいるか	8/22	新聞社	電話
16	8/30	市内にあった旗本領について	8/30	一般	E-mail
17	8/29	加治地区の歴史・風土・文化について	9/4	一般	E-mail
18	8/31	風影村の田尻角右衛門について	10/21	一般	来館
19	10/29	「とのやま」について	10/29	小学校	電話
20	11/13	昭和30年の行幸について	11/13	市職員	電話
21	11/18	「武蔵野」について	11/18	企業	FAX
22	12/3	戦時中学徒動員で行った飯能のレンズ工場と、その際の宿泊先となっていた寺院の詳細について	12/3	一般	電話
23	12/1	ヤマス商工株式会社について	12/4	研究者	E-mail
24	12/2	飯能市域における近世の和紙生産について	12/2	一般	電話
25	11/13~11/29	旗本京極氏の旗本札について	11/13~11/26	一般	E-mail
26	1/7	智観寺境内に所在する宝篋印塔の基礎部に刻まれた年号について	1/21	智観寺	来館
27	1/14	飯能市域における雛節句に関係する食べ物について	1/15	新聞社	電話
28	1/7	「秩父風土記稿」に記述された高山不動の鐘の表記について	1/31	一般	電話
29	1/25	西川材の苗の植林間隔と木材の目について	2/8	企業	来館
30	2/14	小川家文書『御用向控帳』の中の飯能戦争関係部分の翻刻について	2/22	一般	電話
31	3/25	谷津田の歴史を知りたい	3/27	一般	E-mail

当館に対しては、市内の自治会や学習団体をはじめ、市役所の各機関などから講師派遣や原稿執筆の依頼がある。本市には、市職員や消防署の職員が市民の主催する学習会などに出向き、行政の取り組みや役立つ情報などについて話をする「学びとHANN0」出前講座があり、近年ではこの枠組みによって依頼されることが多くなってきている。この講師派遣の件数や依頼内容も、地域の文化・歴史を調査・研究する機関としての当館の存在価値を測る、バロメーターの一つと言えよう。

件数は平成21年度までは、年7・8件であった。しかし、平成22年度10件、平成23年度12件、平成24年度16件、平成25年度18件、そして当該年度である平成26年度は20件と、着実に増えてきている。なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(36ページ)に掲載してある。それ以外のものについてまとめたのが下の表である。



川寺自主防災会「飯能の災害史」(No20)

## ○平成26年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内容	対象者	人数	会場	担当学芸員
1	4/3(木)	14:40~17:00	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「職員として知っておくべき飯能の地理と歴史」	新規採用職員	23	飯能市役所5階501会議室	館長
2	6/4(水)	9:45~11:30	名栗公民館	「まちなか探訪」	講座受講者	5	飯能市街地ほか	尾崎
3	6/9(月)	10:00~12:00	出前講座を聞く会	出前講座「飯能のまちの歴史・飯能戦争について」	一般市民	18	飯能中央地区行政センター第6会議室	尾崎
4	6/17(火)	13:10~14:40	花みずき(永田台婦人会)	出前講座「飯能のまちの歴史」	永田台婦人会	14	飯能中央地区行政センター	尾崎
5	7/14(月)	10:00~10:45	前ヶ貫サロン	出前講座「飯能の昔、加治の昔」	前ヶ貫サロン	23	前ヶ貫会館	尾崎
6	7/16(水)	10:00~11:30	飯能第二地区民生委員・児童委員協議会	「飯能のまちの歴史-知っていたきたい2つのできごと-」	飯能第二地区民生委員・児童委員協議会	19	飯能中央地区行政センター	尾崎
7	8/23(土)	14:00~16:00	一丁目町内会	「飯能の幕末」	一丁目町内会員	42	一丁目倶楽部	尾崎
8	8/31(日)	10:00~11:00	吾野地区6自主防災会	出前講座「吾野地域の災害史-明治43年の“大水”を中心に-」	梨本・三社上・三社下・小床・山崎・桐平地区防災会員	73	吾野地区行政センター	尾崎
9	9/10(水)	13:40~14:00	市企画調整課	「飯能の歴史と横浜とのつながり」	横浜市中区女性団体協議会	45	当館学習研修室	尾崎
10	9/19(金)	15:25~16:00	原市場地区環境衛生協力会	「原市場地区の災害史」	原市場地区環境衛生協力会員	21	当館学習研修室	尾崎
11	9/25(木)	10:00~12:00	飯能地区まちづくり推進協議会	「飯能地区の隠れた地域遺産」	飯能地区まちづくり推進協議会会員	8	当館学習研修室	尾崎
12	9/28(日)	10:00~16:00	日高・飯能民主文庫の会	武州世直し一揆の概要と関係史跡の案内	日高・飯能民主文庫の会会員	20	名栗地域・市街地	尾崎
13	10/1(水)	10:00~11:00	ふれあいサロン笠縫	出前講座「笠縫の昔、加治の昔」	ふれあいサロン笠縫参加者	40	笠縫自治会館	尾崎
14	10/19(日)	13:45~14:15	かるがも	出前講座「入間川南岸地区の災害史」	かるがも会員	46	前ヶ貫会館	尾崎
15	10/22(水)	13:00~14:30	飯能市退職校長会	第8回地域めぐり(特別展「機屋の挑戦」内容説明など)	飯能市退職校長会員	19	当館学習研修室	村上
16	10/29(水)	9:00~11:30	中央公民館	飯能を知ろうオーク	一般市民	13	当館学習研修室	館長
17	11/2(日)	13:00~16:00	練馬古文書の会	飯能戦争、武州一揆について	練馬古文書の会会員	25	当館学習研修室ほか	尾崎
18	11/10(月)	10:00~12:00	出前講座を聞く会	出前講座「飯能の「山上の霊地」」	一般市民	11	飯能中央地区行政センター	村上
19	1/31(土)	10:00~11:00	飯能まちなかを元気にする会	出前講座「飯能のまちの歴史」	飯能まちなかを元気にする会会員および飯能検定合格者	31	飯能市役所別館会議室1	館長
20	2/7(土)	17:00~18:00	川寺自主防災会	出前講座「飯能の災害史」	川寺自主防災会会員	13	川寺自治会館	尾崎

合計のべ人数 509人

# 収 集

飯能市郷土館条例第1条に規定されているとおり、当館は地域の歴史、民俗、考古に関する資料やそれに関わる情報を通して、市民が地域の歴史や文化について学習するために設置された社会教育機関である。

したがって資料を収集し、保存することは当館にとって重要な役割の一つであるといえる。

資料の多くは市民からの寄贈によっているが、それは資料寄贈申請書(施行規則様式第5号)の提出とそれに対する資料受領書(同様式第7号)の交付によって成立し、そこで初めて当館の所蔵となる。

このほか、飯能市役所内各課・所、施設からの移管や、購入により資料が取得されることもある。このようにして収集した資料は、市民の財産として永遠に保存・管理していくために、整理作業へと送られる。

## 寄贈資料

平成26年度に寄贈を受けた資料は下表の44件、129点である。

### ○平成26年度寄贈資料一覧

(敬称略)

番号	資 料 名	点数	寄贈者名
1	「貸自動車賃金表 大正十三年五月」・回数券・「昭和16年金銭出入帳」など	1式	佐野 敏夫
2	電話機(黒電話)	1点	山岸 忠義
3	教科書	3点	峰岸 登
4	小岩井渡場遺跡表採石器	29点	金子 任
5	古文書・軸装・民具・冊子類など	1式	中村 治夫
6	フイゴ・自在鉤・護符など	1式	森口 彰徳
7	古文書	2点	飯能市役所環境緑水課
8	古文書・「埼玉県入間郡飯能町歳入歳出決算書」・紙袋など	1式	森口 彰徳
9	フランス刺繍図案集・家庭志ぼり図案・「豆奴印 酸性染料の染方」・鐘	5点	中村 桂子
10	図書『旅立ち 遠い崖-アーネスト・サトウ日記抄1』など	21点	加藤 廣子
11	「縷幕箱」「本溜三筋吸物膳三拾人之内拾五人」「木具膳三拾人之内拾人」など	1式	双木 利八郎
12	武蔵絹織物信用購買生産組合出資証券・飯能劇場組合出資証券	2点	堀越 喜代子
13	奉公袋(中山忠三九)・「在郷軍人会演練出欠表」・出世軍馬厩など	1式	中山 圭子
14	絵画(千家元磨筆)	1点	新井 孝治
15	堀越義男家文書(小槻家文書)	1式	堀越 喜代子
16	古文書・空撮写真など	1式	塩野 敏久
17	「広報なぐり」など	1式	町田 重雄
18	紙焼き写真「上名栗字名郷練積谷留工」「下名栗川又荒廃林地復旧工事ヶ所」・上名郷地内練積谷留工図面	3点	高野 博光
19	航空写真パネル(1/10,000)	2点	飯能市役所都市計画課
20	紙焼き写真「〔丸中産業報国会写真プリント〕」「〔運動場で体操をする女子集団〕」	5点	嶋崎 和夫
21	飯能町水道使用条例など	8点	中山 圭子
22	古文書・書棚・護符など	1式	新井 景三
23	大日本行程大絵図	1点	小高 善吉
24	つるべ桶・井戸車	2点	鈴木 邦彦
25	DVD「農村の結婚改善憲法第24条会の記録」	1点	新井 幸一・内沼 貴史 内沼 須美

番号	資料名	点数	寄贈者名
26	小槻工場関係資料	1式	堀越 喜代子
27	手ぬぐい	2点	石井 英子
28	刺子など「火消し服装」	1式	双木 靖夫
29	株式会社平沼商店「大正拾壹年参月吉日大寶恵」	1点	浅見 賢治
30	「戦前の鉄鋼生産を支えた奥武蔵山中の貨物索道」	1点	熊谷 友昭
31	図書『さいたまの民謡』	1点	石井 英子
32	木目込み雛	3点	匿名個人
33	図書『モリアオガエルがようこそ六カエル（迎える）』・テープ「飯能祭り囃子」 「同級会音頭」	4点	石井 英子
34	着物(男物)・古写真	1式	細田 ヤイ子
35	羽子板	2点	匿名個人
36	「全飯能野球団」旗・「飯能研修学院PTA報」	2点	大野 哲夫
37	古文書・図書『武蔵野の記録』『東吾野郷土誌』など	1式	上 笙一郎
38	精明村全図	1点	精明地区行政センター
39	御殿雛・下駄（ポックリ）	2点	吉岡 直子
40	白黒プリント「モハ106」・国分寺⇄本川越間開業90周年、池袋⇄飯能間開業70周年 記念乗車券 付封筒・リーフレット「西武特急レッドアロー号完成記念 '69-10西武 鉄道新鋭車両のごあんない」など	4点	園田 正雄
41	DVD「うちおり」	2点	石井 英子
42	袴雛・古文書・古写真	1式	奥津 八郎
43	紙焼き写真	2点	奈良 まりみ
44	町田豊年家阿弥陀三尊庚申供養画像板碑	1点	町田 豊年



絵画 (千家元麿筆 No.14)



つるべ桶 (No.24)

## 購入資料

平成26年度に、下記の資料を購入した。

資料名 ①『所澤織物同業組合月報』……102冊 (第18～160号 途中欠有り)

[大正13(1924)年8月～昭和11(1936)年7月]

②『西武電車沿線案内』…………… 1点 [昭和5(1930)年以前]

## 整理(情報化)

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々な「モノ」は、そのままでは博物館の資料とはなりえない。「整理」とは、資料についての情報を抽出し利用可能なものにする作業で、この過程では様々な記録が作成される(ドキュメンテーション)。

当館の場合、資料寄贈申請書または資料購入調書が資料を受け入れる際に作成される最初の文書である。これを元として1点ごとに資料カードが作成される。カードの書式や与えられる資料番号、資料の種別によって異なり、古文書・典籍を除きすべてのカードには資料写真も添付される。当館は現在も紙媒体の資料カードが基本である。それに記載された情報の一部をコンピューター内の目録データに入力し、検索の手段としている。すなわち整理作業とは、ドキュメント(document)作成を通じた資料の情報化にほかならない。

長年の課題としては、「モノ」に付属しない地域の情報(例えば聞き取り結果や地域遺産の所在情報)を組織で共有化し引き継いでいくためのシステムづくりがあった。しかし、平成25年度より近世村を単位としたフォルダーを作り、地域の情報を紙ベースにて収納するようにした。また、平成24年度の所蔵写真電子化事業によって、開館以来これまでに撮影した写真のほぼ全てについて、検索できるシステムが完成した。それを受けて平成25年度以降撮影した写真は、このシステムに登録するため一元管理している。

このデータの維持管理は、情報(管理)担当の学芸員が行うこととなっているが、未だ十分に機能しているとはいえない状況にある。

### ●資料整理の概要

#### ①民具

民具とは、一般的には人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具を指すが、当館の場合、古文書・典籍、古写真、絵画、工芸、考古に属さない資料のすべてがこの範疇で整理されている。

民具が搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、番号が与えられる。それが資料番号となる。そして資料名・寄贈者氏名・住所、寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報がカードに記録される。平成26年度は137点の資料を整理した。

なお、収蔵している民具のうち、西川材生産に関係する用具448点は埼玉県有形民俗文化財に指定されている。

#### ②古文書・典籍(文献資料)

紙に文字や記号、図像などが記録されている資料が該当する。地域史料と呼ばれているものの中心を占めるものである。これらの多くは昭和49年から昭和62年まで行われた飯能市史編さん事業の過程で収集されたものである。

現在、当館では特別収蔵庫における史料の配架は史料群別となっており、所蔵文書目録のデータはExcel(マイクロソフト社)で管理している。ただし、このデータは大部分が市史編さん事業の際に作成された仮目録である。そこで平成23年度よりそれに内容についての情報や、史料の劣化状況に関する所見を加え、データベースソフト(マイクロソフト社のAccess)上で統合、誤りを正し表記を統一する作業を行なっている。この作業は、目録刊行の準備作業であるとともに、検索の精度を上げていくことにもつながる。また、それと並行して適宜、中性紙封筒、中性紙保存箱への詰め替えも行っている。

#### ○平成26年度古文書整理実績

史料群名	整理点数	区分	受入年度
大河原文子家(飯能・購入)	5	新	平成23年(2011)
島崎典泰家(笠縫)	2	新	平成25年(2013)
吾野小学校	55	新	平成19年(2007)
吉原欣一家(市外)	2	新	平成25年(2013)
石井茂樹家(原市場)	578	託	平成22年(2010)
合計	642		

※新=新規受入(未整理分) 託=寄託

なお、当該年度は、4つの史料群と、当館に寄託されている1つの史料群について、写真撮影、カードの作成、データの入力などを行なった。合わせて5つの史料群、642点を整理した(46ページ表)。

### ③古写真

当館で収蔵している写真資料は個人所蔵の写真を複製させていただいたものと、館で所蔵しているものの2種類に分けることができる。これらの資料はいずれも、古文書・典籍(文献資料)と同様に、所蔵者(旧所蔵者)を単位として整理をおこなっている。写真1点ずつでカードを作成、所蔵者などからの聴き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。

また、平成24年度の所蔵写真資料電子化事業により、写真資料検索システムが導入されたことにより、タイトル、所蔵者、撮影年月日、撮影場所などの項目から、古写真の画像データを容易に探し当てることが出来るようになった。

### ④絵画

当館では軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画に加え、本市に在住、またはゆかりのある作家の油彩、デッサンなどの近代絵画を収蔵している。これらについては1つの作品ごとにカード化して管理している。

このうち近代絵画168点は、精明小学校の余裕教室に絵画収蔵棚を設置して絵画保管室とし、平成25年1月からここでの保管を開始した。しかし、平成24年度の予算では全ての棚が製作出来なかったため、平成25年度に残りの絵画収蔵棚を作成し、平成25年10月27日に216点を新たに移送した。現在342点がここに保管されている。

### ⑤工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、接収刀剣類を含む日本刀などがある。日本刀については、燻蒸休館中の7月3日に手入れを行なった。

### ⑥考古資料

当館で収蔵している考古資料は、市民から寄贈を受けた飯能焼原窯表採資料や板碑などである。

なお、教育委員会生涯学習課による発掘調査で得られた考古資料は、生涯学習課が管理する施設等で保存している。

### ⑦その他の資料

このほかに、他の博物館、市の機関などが発行した図録、報告書、要覧などの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成している。また、本市に関係するビデオソフトやDVD、記録映像として価値があるもの、さらにはレコードやテープ、CDといった音声資料も収蔵している。これらの資料についても台帳が作成され、利用できるようになっている。

このうち、喫緊の課題であった磁気テープのデジタル化(メディア変換)については、当該年度に着手、株式会社金聖堂情報システムに委託した。ビデオテープ(VHS・S-VHS・ベータ)20本(下表参照)に収録されている映像のアナログデータをデジタル化すると共に、閲覧用・保存用DVDを作成、DVDと同等の内容のデータをハードディスクに書き込んだ。

### ○平成26年度デジタル化映像資料一覧

No.	タイトル	ビデオの種類
1	飯能の絵馬師「小槻正信」木地板から	S-VHS
2	刀の製作工程(研磨)小沢寿久氏	S-VHS
3	我野神社獅子舞 1	S-VHS
4	我野神社獅子舞 2 川瀬まつり	S-VHS
5	小瀬戸浅間神社獅子舞	S-VHS
6	阿寺諏訪神社獅子舞	S-VHS
7	阿寺諏訪神社神楽 南川・花桐獅子舞	S-VHS
8	高山三輪神社獅子舞	S-VHS
9	平沼優宅	S-VHS
10	養蚕風景	S-VHS
11	千歯こぎ・唐箕実演	S-VHS
12	絹織物製造工程(綜統・オサ通し)	S-VHS
13	北川の獅子舞 No.1	VHS
14	北川の獅子舞 No.2	VHS
15	我野神社獅子舞 No.1	VHS
16	我野神社獅子舞 No.2	VHS
17	筏	VHS
18	常楽院 火渡り	VHS
19	筏	ベータ
20	筏	ベータ



## ○当館の収蔵資料目録一覧

No.	種類	タイトル	発行年月
1	写真資料目録1	写真資料目録Ⅰ ー明治～昭和前期ー	平成15(2003)年3月
2	写真資料目録2	写真資料目録Ⅱ ー昭和・平成ー	平成17(2005)年3月
3	民俗資料目録1	飯能の西川材関係用具	平成19(2007)年3月
4	文書目録1	武蔵国高麗郡矢嵐村中村正夫家文書目録	平成21(2009)年3月
5	写真資料目録3	写真資料目録Ⅲ ー名栗地区ー	平成23(2011)年3月
6	民俗資料目録2	護符・版木など	平成26(2014)年3月

## ○カード作成もしくは目録登録済資料点数一覧

(平成27年3月現在)

民具	古文書	古写真	絵画	古美術	工芸	文学	考古	映像	レコード	テープ	図書	合計
5,685	45,463	5,664	447	1	277	28	1,764	235	866	84	16,049	76,563

# 保 存

### ●新収蔵資料の燻蒸

当館では、平成15年度から新規に収集した資料をビニールシートで覆う被覆燻蒸を実施している。年1回荷解室で行い、資料はその後に収蔵庫に収納される。

平成26年度は6月26日(木)に準備として燻蒸対象物を移動し、7月1日(火)に養生作業を行い、その後投薬開始、3日まで燻蒸処理した後排気を行った。使用薬剤はエキヒュームSで、有限会社環境技術に委託して行われた。この間、7月1日(火)から7月5日(土)までを臨時休館とした。



荷解室に集められた燻蒸対象資料

### ●当館、名栗村史史料保管室・名栗くらしの展示室の環境調査

当館では、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象となるのは、当館の特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホールで、内容は、昆虫生息調査50ヶ所(歩行性昆虫トラップ44・飛翔性昆虫トラップ6)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。また、名栗地区行政センター2階にある名栗村史史料保管室及び名栗くらしの展示室では、昆虫生息調査12ヶ所(歩行性昆虫トラップ10・飛翔性昆虫トラップ2)、空中浮遊菌調査2ヶ所、表面付着菌調査が2ヶ所である。当該年度は1回目を6月25日(火)から7月15日(火)まで、2回目を9月11日(木)から9月30日

(火)までの期間で実施した。調査の結果、当館整理室・荷解室及び一般収蔵庫、名栗村史史料保管室・名栗くらしの展示室にてチャタテムシ、当館収蔵庫前室にてタバコシバンムシが捕獲され、経過観察を行なった。幸いな事に資料への被害は確認されなかった。

### ●歴史公文書の収集と保存

行政文書のうち、廃棄対象となったものから歴史資料として重要な文書を収集することは当館の業務の一つとなっている。

本市では、保存期間が3・5・10・永年の文書は委託業者の倉庫に保管されており、このうち保存年限が過ぎた文書は年度初めに業者の倉庫から運び出され、各課で確認後、廃棄文書として市役所第二庁舎の一角に集められる。当館ではこれら廃棄対象となった文書から歴史資料となりそうな文

書を選び出している。ただし、これは廃棄決定直後の短期間のうちに選別する作業のため、歴史公文書保存のためのあくまで一次選別である。

選定した文書はこれまで株式会社ワンビシアーカインズの倉庫に保管委託していたが、その保管料が次年度から大幅に値上がりするとの連絡があったため、すべてを出庫し、旧図書館の地下書庫に保管することとした。保管場所の移動作業は平成26年10月15・17・23・24日に実施し、移動した文書は平成15年からの保存文書619箱である。

平成26年度の選別作業は、平成26年12月10日から27年1月8日の6日間にかけて実施した。廃棄対象となった文書は段ボール箱(高26cm×幅33cm×奥行21cm)1,381箱分であり、これを選別し、

90箱分を保存した。廃棄対象文書に対する保存対象文書の割合は6.5%であった。



歴史公文書の収集現場①



歴史公文書の収集現場②



歴史公文書の収集現場③

# 調査・研究

博物館が特別展などの展示や学習会、レファレンスの対応、史料の貸出利用といった教育活動を行なっていくためには、調査・研究は不可欠のものである。この場合、その中心が収蔵資料に対するものであることはいうをまたないが、同時に地域博物館が「地域の情報センター」として機能していくためには、地域の歴史、文化的な事象についての調査研究を行うことも非常に重要である。

現在のところ、当館における調査研究活動は、特別展開催のための資料調査や、研究紀要の刊行に伴う単発的なものにとどまっており、それは各学芸員の問題意識に基づいて行われる。さらに当館の存在意義を示していくためには、地域の課題や市民の興味・関心に、より近づいたテーマ設定が求められるように思われる。

## 特別展に関する調査

平成26年度の特別展「機屋の挑戦」は、15ページでも触れたが、すでに館外の研究者により調査・研究が進められているテーマについて、企画した特別展である。その性格上、担当学芸員による調査は、特別展の原案を作成した宮本八恵子・木村立彦両氏の指導に基づくものとなっている。

また、調査もさることながら、作成された原案を元に展示を構成するにあたり、宮本・木村両氏との打ち合わせが不可欠となった。

打ち合わせ・調査については、次のとおりである。

### ○打ち合わせ

- 4/27 展示資料の選別について
- 7/11 展示資料の選別・展示方法について
- 7/20 展示資料の選別・展示方法について
- 8/10 展示資料の選別・決定について
- 9/4 史料解説の内容について
- 10/2 展示構成・展示資料の配置について

### ○調査

- 8/6 所沢市生涯学習推進センター（資料調査）
- 8/13 入間市博物館（資料調査）
- 9/13 町田清氏宅（資料調査）

## 古文書詳細調査

古文書詳細調査では、これまで平成16年度から21年度にかけて本市教育委員会で実施した古文書所在確認調査の補足や、当館で所蔵、もしくは受託している史料の翻刻や内容分析、あるいは特別展に関係するテーマに関する史料の調査などを行ってきた。

いっぽうで山間地では、人口減少を食い止めるため地域の魅力を掘り起こし、活性化につなげようと様々な試みが行われている。名栗村史編さん事業に触発される形で地域の歴史をわかりやすくまとめた本を求める声が当館にも寄せられるようになってきているのもこれと関係がある。この危機感は、当該年度（平成26年度）5月に民間の研究機関である日本創成会議が発表した「消滅可能性都市」（2010年から40年にかけて20～39

歳の女性の数が5割以下に減る自治体のこと）に本市が該当することによってより強まってきており、当館としてもこれに 대응していく必要がある。



調査風景

こうした動きをふまえ、前年度より原市場地区の古文書整理に重点的に取り組むこととしているが、当該年度も引き続き池田昇氏にお願いし、受託史料である武蔵国高麗郡原市場村の石井家文書の整理を行った。

そのほか当該年度は、地方史料調査会と合同で8月16日(土)・17日(日)に大字坂元(旧武蔵国秩父郡坂元村・柵平)に所在する采澤菊平家の文書調査を行った。

## 研究紀要の刊行

平成12年3月、当館が博物館法に基づく登録博物館になった際に、博物館の機能の充実を図る方策の一つとして研究紀要の刊行を計画し、平成12年度に第1号を刊行した。その後、原則として隔年で刊行しており、平成26年度には第7号を刊行した。

研究紀要は地域の歴史・民俗・考古に関する調

査・研究の成果をまとめたもので、執筆は当館学芸員のほか、教育委員会生涯学習課文化財担当職員や、当館の収蔵資料を調査している研究者などにも依頼している。また、当館の市民学芸員が執筆する場合もある。

なお第7号を含め、これまでに刊行した研究紀要の概要は下表のとおりである。

### ○当館の研究紀要一覧

号数	発行年月	所収論文・報告など	執筆者
1	平成13年3月	「市民学芸員」	村上義彦
		飯能とその周辺の絵師について	尾崎泰弘
2	平成14年3月	特別展「飯能、戦後の暮らし」の展示について	有馬雅彦
		「小さな郷土館」の小さな試み	田嶋佐奈恵
		宮寺与七郎の甲冑と三田谷	齋藤慎一
		田中鎮次家文書にみる明治初期の女性教師	尾崎泰弘
3	平成16年3月	エジソンの気持ちが少しわかった1週間～電球作りの学習会を企画して～	柳戸信吾
		わたしも学芸員？～収蔵品展に取り組んで～	島崎淳子
		当館収蔵の「うちおり」について	有馬雅彦
4	平成20年3月	河原毛久保窯跡で焼かれた平安時代の須恵器坏について	村上達哉
		飯能市域に残された天狗の伝説について	村上達哉
		小槻藤次郎家織物関係資料について－調査結果と中間報告－	松本英男 木村立彦 田口和子 宮本八恵子
		飯能焼原窯跡の研究（1）－年代と編年－	富元久美子
5	平成22年3月	飯能縄市の成り立ちと見世空間	尾崎泰弘
		「昔の子どもの遊び」と「紙芝居」についてのアンケート調査結果報告	市民学芸員 紙芝居部会
		寛文八年検地と矢風村の成立	尾崎泰弘
6	平成25年3月	飯能市域における山岳宗教について	村上達哉
		加能里遺跡の製塩土器－加能里遺跡試掘調査第9地点の成果－	宮内慶介
		多摩における振武軍の軍用金調達と改革組合村	尾崎泰弘
		飯能市中藤下郷所在の菅原神社の調査結果報告	柳戸信吾
7	平成27年3月	加藤樹家護符にみる子ノ権現・竹寺・高山不動への信仰について	村上達哉
		明治期の飯能地方における綿織物工場経営～小槻機屋を中心として～	木村立彦
		資料紹介 当館収蔵の護符①－飯能市域に所在する寺社の護符－	村上達哉
		史料紹介 「明治四十三年水害之草稿」について	尾崎泰弘

## 刊行図書



特別展図録

「機屋の挑戦 —明治から昭和へ、小槻工場物語—」

A4判56ページ  
(平成26年10月12日発行)



飯能市郷土館研究紀要  
第7号

A4判56ページ  
(平成27年3月31日発行)



飯能市郷土館館報

「郷土館のプロフィール」  
第11号

A4判74ページ  
(平成27年3月31日発行)

## 郷土館だより

「郷土館だより」は、当館の事業を市民により広く知ってもらうための広報誌で、平成13年5月1日に創刊されたものである。その後、年によって発行回数にばらつきがあるものの、年4回季刊で発行することを目標にし、体裁は庁内印刷による白黒A4判4ページであった。費用の点から、広報はんのう(以下「広報紙」と略す)配布時に自治会・町内会のご理解とご協力のもと、回覧

で見ていただいていた。

だが、当該年度からは広報紙の発行回数・内容の見直しに伴い、郷土館だよりも回覧ではなく広報紙上の「生活の森」の記事として掲載されることとなった。当該年度においては、3回掲載を行なった。広報紙の発行日・内容については下表のとおりである。

### ○平成26年度の郷土館だより一覧

号数	発行日	内容
第37号	平成26年 6月1日	森林とともに生きた人々の暮らしを伝える 名栗くらしの展示室 がオープンします! / 合併10周年記念 名栗くらしの展示室オープニングセレモニー / 郷土館での展示 駿河台大学 野村ゼミ実習展示 飯能焼~火と土と職人の技~
第38号	平成26年 10月1日	終了した主な事業(合併10周年記念 名栗くらしの展示室オープニングセレモニー、収藏品展 郷土館の一品、竹の水鉄砲で遊ぼう、夏休み子ども歴史教室「文化財めぐりとかるたづくり」、第17回飯能市小・中学校社会科研究展) / 今後の主な予定(特別展 機屋の挑戦、むかしのくらし~民家の台所再現~) / 郷土館ホームページをご覧ください(おすすめのページ 地域の歴史情報、郷土館日誌)
第39号	平成27年 3月1日	平成27年度の郷土館行事予定 / 主な事業の概要(埋蔵文化財出土品展、特別展「武蔵野鉄道開通百周年記念展(仮称)」、名栗くらしの展示室体験講座「機織り」、竹の水鉄砲で遊ぼう) / 郷土館で麦を育てています

# ホームページ

当館では、平成14年10月にホームページの公開を開始し、平成24年2月の飯能市のホームページ全面改訂に伴って大きく更新した。

ホームページは手軽な情報伝達手段であるためその充実には力を入れているが、市のホームページ管理システム上で制作しているため、独自性が出しにくく、メニューの設定等に制限があるなどの問題点もある。

月ごとのアクセス件数は右表のとおりである。8月からは飯能市のトップページに当館のバナーを置くことができたため、アクセス件数が増加した。閲覧されているページの内訳は毎回トップページが1位か2位を占めているほか、「身近な麦」「昔の麦づくり」「麦こがしの作り方」などの麦に関するページが毎月上位を占めており、特に11月には「身近な麦」に5,179件ものアクセスがあった。この理由としては検索エンジンで「麦づくり」と検索するとその上位に当館のページがヒットすることが考えられる。そのほか、日々のちょっとした出来事や一般の方々にはあまり知られていない学芸員の仕事のようなすなどを伝える「郷土館日誌」も毎回上位を占めている。

また、6月に開室した名栗くらしの展示室、9月に開催した小中学校社会科研究展、10月から12月にかけての特別展、1月から2月にかけて実施した小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」は、それぞれの月のアクセス件数で上位に入ってきており、ホームページが当館の事業を伝える重要な役割を担っていることが推測できる。

平成26年度  
郷土館ホームページアクセス件数

月	トップページ 件数	件数 (管理ページ全体)
4月	538	8,626
5月	643	9,910
6月	880	11,224
7月	676	9,520
8月	939	9,929
9月	899	8,838
10月	954	11,854
11月	927	17,955
12月	730	11,304
1月	788	14,001
2月	907	12,447
3月	858	10,589
合計	9,739	136,197
1ヶ月平均	811.6	11,349.8

## That's ! 郷土館

「That's ! 郷土館」は、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行している番組表にスペースをいただき、毎回地域の歴史・文化を紹介しているものである。

連載は平成13年5月から始まっており、内容は展示資料や収蔵資料に関すること、地域の特定の歴史事象に関すること、資料の整理や調査で気付いた点など様々である。地域の情報の紹介や当館の活動内容を伝える貴重な場であり、学芸員が交代で執筆している。

この番組表はケーブルテレビを視聴している家庭を中心に、飯能・日高市内の多くの箇所でも配布されているが、より多くの方に読んでもらえ

るように、平成18年4月号分から当館のホームページにも掲載している。平成26年度の掲載内容は下表のとおりである。

○平成26年度「That's ! 郷土館」掲載記事一覧

月	内 容	担当 学芸員
4月	災害記憶の風化を留める地域遺産⑤矢廬の土蔵が意味すること	尾崎
5月	荒野の中の小さな駅?	館長
6月	中世の山城ーリュウガイ城跡ー	村上
7月	良い蚕を育てるために一名栗に伝わった新技術ー	宮島
8月	飯能の「お酒」の話	尾崎
9月	関東大震災発生時の飯能	館長
10月	西武線と東急線直通運転の影に・・・	尾崎
11月	十七音の芸術ー飯能の俳諧文化ー	宮島
12月	(編集の都合により休載)	ー
1月	(編集の都合により休載)	ー
2月	「奥武蔵スキー場」をご存知ですか?	村上
3月	「オクリビナ」(「ヨメノヒナ」)の話	村上

# 事業支援

平成18年度から27年度までを対象とする飯能市第4次総合振興計画の基本構想では、少子高齢化の進行と総人口の減少、高度情報社会への移行といった社会情勢の変化の中で、都市の魅力を高め活力ある地域経済を確立することが重要とされる。そして本市の「魅力」アップのため、自然や歴史、文化を活用し「住みよいまち」のイメージを作り出し、地域ブランドを創造し、積極的に情報を発信して、若い世代の定住や交流人口の拡大をはかり、企業誘致などにより地域経済の活性化に努める、とする。

こうしたまちづくりの基本概念のもと、市役所内の様々な課所などが事業を行なっているが、これらを行うにあたり、当館が持っている地域の歴史・文化情報が注目され始めている。これらの動きは、ともすると歴史文化情報資源の「使い捨て」にもつながり注意が必要であるが、一方で歴史博物館の存在意義を庁内で広く認識してもらい、またとない機会とも捉えられる。

以上の視点より平成25年度から、地域の魅力づくりにつながる事業の支援も当館の業務として位置付け、積極的に取り組むこととした。内訳は下表のとおりである。

## ○平成26年度「事業支援」実績

	支援先	月日	内 容
1	市街地活性化推進課	6/22	「ご当地検定」の問題・解説の確認。
2	生涯学習課	10/31	成人式の記念品に添える解説文の作成。

※特に断りのないものは飯能市役所の課

### 平成27年成人式 記念品



#### 祝 成人

～現在に、そして未来に伝えられる飯能の織物～

飯能の地は明治時代以降、織物業が大変盛んでした。その歴史にちなみ、記念に織物をお贈りします。

この織物は、明治元年(1867)創業、飯能の織物工場の老舗である、市内の事業所で織られたものです。

その事業所は、東京スカイツリーのスタッフが着用する制服の生地を織るなど、その高い技術力が広く認められています。

この記念品は、日本一高いその東京スカイツリーのように高い志を持ち、自分に自信が持てる大人にふさわしく!との思いで用意しました。

平成27年1月12日

平成27年成人式記念品解説文(解説文の元原稿を作成した)

郷土館協議会は、飯能市郷土館条例第10条に基づき、当館の運営に関する事項を調査し、審議するために置かれている。委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成24年7月1日～平成26年6月30日

## 【委員名簿】

### 【開催状況】

第1回 平成26年6月4日(水)  
午後2時～3時40分

(議事)

報告事項

- ・平成25年度事業報告について
- ・平成26年度事業経過と今後の予定について

職名	氏名	役職	備考
会長	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
副会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
委員	山下 利明	吾野小学校長	
委員	中川 佳和	吾野中学校長	
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	野村 正弘	駿河台大学准教授	
委員	保坂 裕興	学習院大学教授	
委員	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木会長	
委員	小槻 成克	市文化財保護審議委員会委員	

任期：平成26年7月1日～平成28年6月30日

## 【委員名簿】

### 【開催状況】

第2回 平成26年8月20日(水)  
午前10時～11時40分

(議事)

報告事項

- ・平成26年度主な事業の経過及び今後の予定について
- ・平成25年度教育行政の重点施策の評価結果及び26年度の重点施策について

職名	氏名	役職	備考
会長	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
副会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
委員	山下 利明	飯能第一小学校長	
委員	中川 佳和	吾野中学校長	
委員	杉田 和美	学童保育なぐりっ子クラブ指導員	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	野村 正弘	駿河台大学教授	
委員	栗原 慶子	東吾野女性林研ときめ木会長	
委員	小槻 成克	市文化財保護審議委員会委員	
委員	馬場 憲一	法政大学教授	

第3回 平成26年11月26日(水)  
午前10時～11時

(議事)

報告事項

- ・平成26年度事業報告について
- 協議事項
- ・平成27年度事業計画について

第4回 平成27年3月18日(水)  
午後1時30分～3時

(議事)

報告事項

- ・平成26年度事業報告について
- 協議事項
- ・平成27年度事業計画について



# 博物館実習

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つである。博物館又は博物館相当施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得される。文部科学省では、平成21年4月における博物館施行規則の改正を機に、「博物館実習のガイドライン」を作成している。登録博物館である当館は、このガイドラインを参考にしながら博物館実習を実施している。ガイドラインは、博物館が学芸員を始めとする博物館に関する人材を育成する責務を有していること、実習の受け入れが博物館の質の向上につながることを指摘している。当館としてはそれだけではなく、実習を通して実習生とその周辺の人々に、当館の役割や存在意義に対する理解を深めてもらうことも、重要な目的の一つと考えている。

受け入れる学生は、原則として市民とみなされる世帯に属し、博物館学概論の単位を修得していることを応募の条件にしている。実習の前年度末までに申込書を受け付け、4人以内で実習生を決定している。

実施期間 平成26年7月23日(水)～8月5日(火) 12日間

実習生氏名 猪狩洋介・堺文男(駿河台大学)・保坂瑞稀(東京工芸大学)

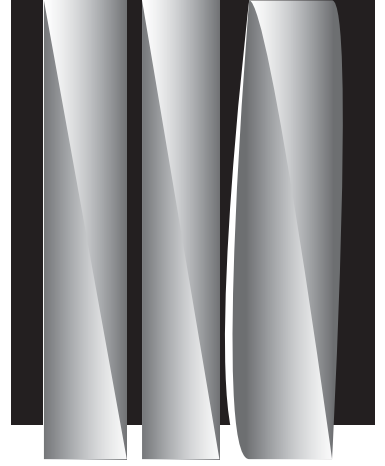
## ○平成26年度博物館実習カリキュラム

日数	実施日	曜日	午前	午後
1	7月23日	水	オリエンテーション・館内案内(尾崎)	収蔵品展「郷土館の一品」準備(尾崎)
2	7月24日	木	「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備(館長)	
3	7月25日	金	「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備(館長・宮島)	
4	7月26日	土	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営(館長)	
5	7月27日	日	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)	
6	7月29日	火	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)	
7	7月30日	水	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)	
8	7月31日	木	夏休み子ども歴史教室運営(尾崎)	
9	8月1日	金	夏休み子ども歴史教室運営(尾崎)	
10	8月2日	土	夏休み子ども歴史教室反省(尾崎)	収蔵図書の移動(尾崎)
11	8月3日	日	古文書の整理(尾崎)	
12	8月5日	火	当館の現状と運営方針(館長)	郷土館の課題についてまとめ(館長)

( )は指導者名



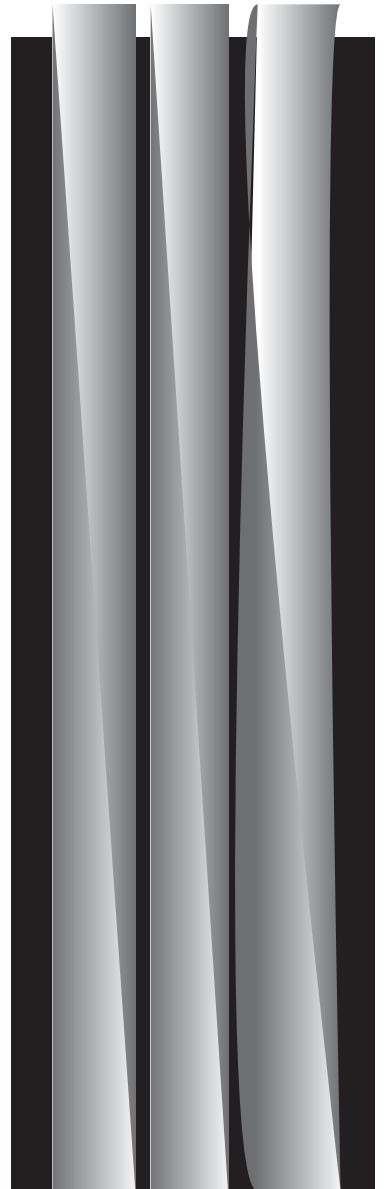
実習風景



## 第 3 章

…… Chapter 3 ……

# 【各種データ】



# 利用者数

平成26年度

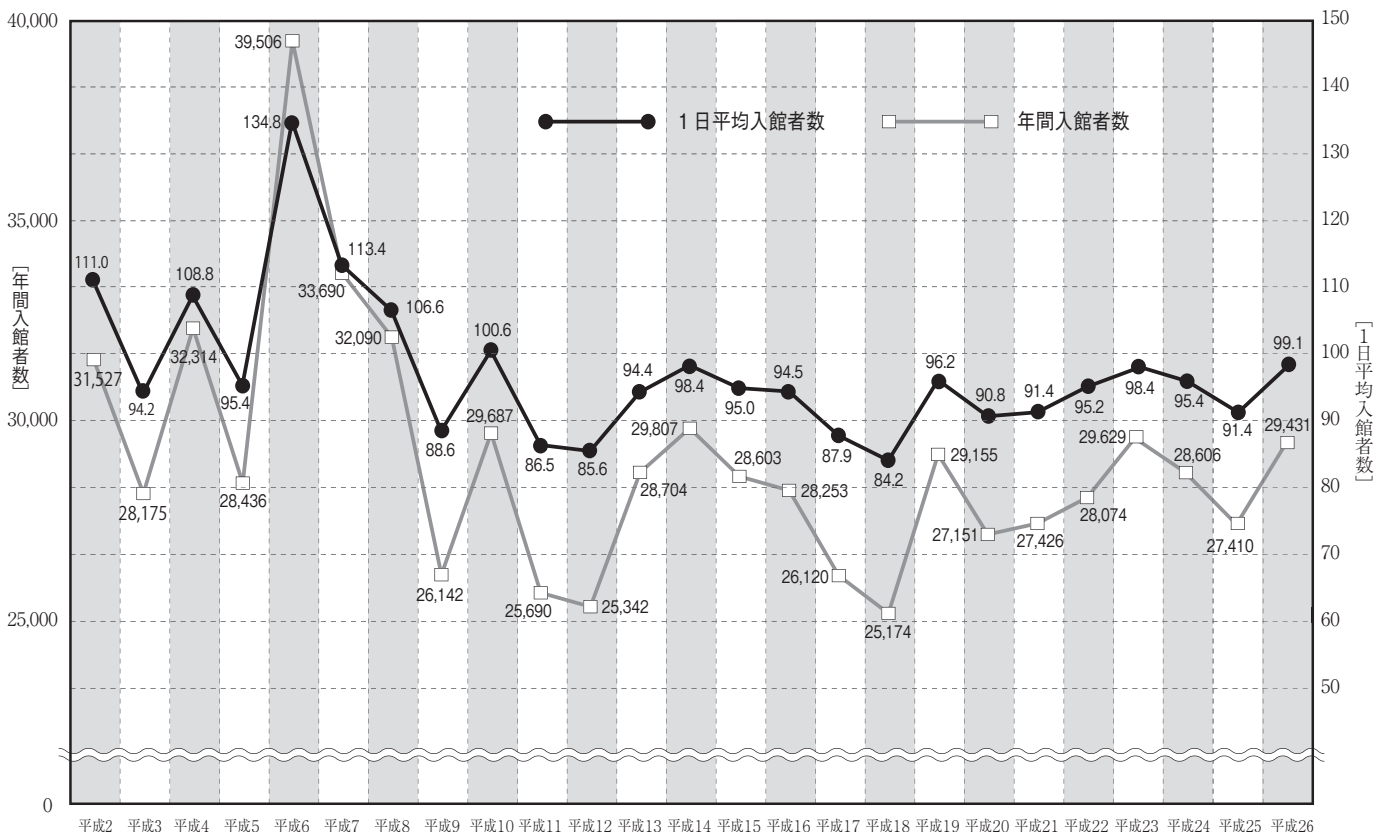
単位：人(明記したものを除く)

月	開館日数(日)	入館者数		入館者以外の利用者数						利用者合計(A+B)	利用者合計に対する割合	利用者合計(A+B)
		人数(A)	1日平均	出張授業受講者数	資料利用者数	レファレンス件数	講師派遣受講者数	ホームページアクセス件数	合計(B)			
4	25	2,419	96.8		7	10	23	538	578	19.3%	2,997	
5	27	2,171	80.4		9	28		643	680	23.9%	2,851	
6	25	2,007	80.3	79	15	25	37	880	1,036	34.0%	3,043	
7	21	1,768	84.2	79	5	15	42	676	817	31.6%	2,585	
8	27	1,653	61.2		7	44	115	939	1,105	40.1%	2,758	
9	24	2,479	103.3	101	9	21	94	899	1,124	31.2%	3,603	
10	27	2,383	88.3		14	12	118	954	1,098	31.5%	3,481	
11	26	2,953	113.6	146	7	15	36	927	1,131	27.7%	4,084	
12	22	1,559	70.9		3	12		730	745	32.3%	2,304	
1	23	2,344	101.9		8	12	31	788	839	26.4%	3,183	
2	23	4,025	175.0	13	13	11	13	907	957	19.2%	4,982	
3	27	3,670	135.9		8	13		858	879	19.3%	4,549	
合計	297	29,431	99.1	418	105	218	509	9,739	10,989	27.2%	40,420	

開館(平成2年度)から平成26年度末までの

総入館者数	726,142 人
開館日数	7,450 日
1年平均入館者数	29,045.7 人/年
1日平均入館者数	97.5 人/日

## 〈入館者数の推移〉



# 歳出予算

単位：円（明記したものを除く）

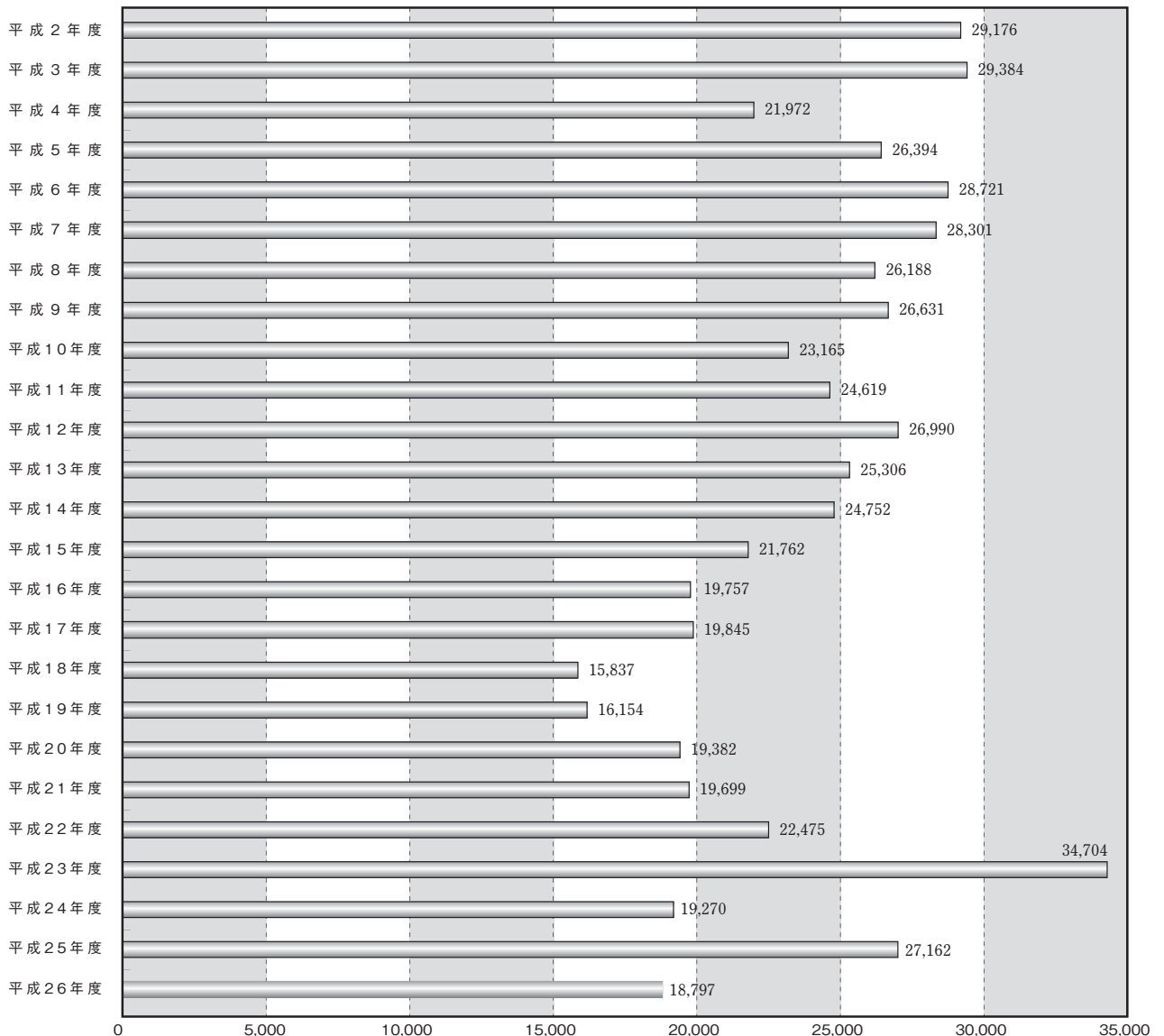
年度	事業名	郷土館事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・保存 事業	調査・研究事業	郷土館施設 管理事業	郷土館事業費 小計	名栗くらしの展示 室整備事業	郷土館費 合計	A(%)	B(円)	C(円)
24	予算額	3,074,000	3,919,000	4,990,000	573,000	6,714,000	19,270,000	0	19,270,000	0.07	234.3	673.6
	割合	16.0%	20.3%	25.9%	3.0%	34.8%						
	決算額	2,592,721	3,101,672	3,833,699	377,802	6,410,923	16,316,817	—	16,316,817	0.06	198.4	570.4
	執行率	84.3%	79.1%	76.8%	65.9%	95.5%	84.7%	—	84.7%			
25	予算額	3,516,000	3,989,000	4,821,000	225,000	7,351,000	19,902,000	7,260,000	27,162,000	0.10	332.8	991.0
	割合	17.7%	20.0%	24.2%	1.1%	37.0%						
	決算額	3,160,359	3,515,183	3,752,644	181,209	6,813,587	17,422,982	7,017,400	24,440,382	0.09	299.4	891.7
	執行率	89.9%	88.1%	77.8%	80.5%	92.7%	87.5%	96.7%	90.0%			
26	予算額	6,588,000	3,667,000	1,732,000	614,000	6,196,000	18,797,000	0	18,797,000	0.07	231.8	638.7
	割合	35.0%	19.5%	9.2%	3.3%	33.0%						
	決算額	6,057,869	3,168,223	1,357,802	443,267	5,897,629	16,924,790	—	16,924,790	0.06	208.7	575.1
	執行率	92.0%	86.4%	78.4%	72.2%	95.2%	90.0%	—	90.0%			

当館事業費（人件費を除く）の割合・金額

A：飯能市一般会計・決算支出済額に対する割合 B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額 C：入館者1人あたりの金額

## 〈飯能市郷土館当初予算額の推移〉

単位：千円



※平成23年度は、調査研究事業に旧平岡レース建物調査、施設管理事業に名栗史料室の整備と旧名栗村役場解体費用が加えられたため、予算が大幅に増額した。  
また平成25年度は、名栗くらしの展示室整備事業が加えられたため、やはり予算が大幅に増額した。

## 図書館資料寄贈機関

### 埼玉県

上尾市教育委員会  
朝霞市教育委員会  
朝霞市博物館  
浅見美沙子  
伊奈石の会  
入間市教育委員会  
入間市博物館  
小川町  
小川町教育委員会  
桶川市教育委員会  
小沢千月  
春日部市郷土資料館  
加須市教育委員会  
加藤廣子  
神川町教育委員会  
川口市立科学館  
川越市立博物館  
河越館の会  
行田市  
行田市郷土博物館  
久喜市教育委員会  
久喜市立郷土資料館  
熊谷市  
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室  
熊谷市立熊谷図書館  
熊谷友昭  
黒田幹太郎  
現代詩の会 岩魚  
古代の入間を考える会  
埼玉地区文化財担当社会  
埼玉県  
埼玉県県民生活部人権推進課  
埼玉県地域史料保存活用連絡協議会  
埼玉県立川の博物館  
埼玉県立さきたま史跡の博物館  
埼玉県立文書館  
埼玉県立嵐山史跡の博物館  
埼玉県立歴史と民俗の博物館  
さいたま市立博物館  
さいたま文学館  
坂戸市教育委員会

サトエ記念21世紀美術館  
狭山古文書勉強会  
杉戸町教育委員会  
駿河台大学  
草加市教育委員会  
租税大学校政務情報センター租税史料室  
鶴ヶ島市遺跡調査会  
鉄道博物館  
ときがわ町教育委員会  
所沢市生涯学習推進センター  
戸田市立郷土博物館  
新座市教育委員会  
日本工業大学工業技術博物館  
野井篤  
鳩山町教育委員会  
(飯能市)「一本の木」オーデイション実行委員会  
(飯能市)坂石町分離子連  
(飯能市)精明郷土史研究会  
(飯能市)二丁目山車復原修理委員会  
飯能市  
飯能市教育委員会  
飯能市郷土芸能保存会  
飯能市社会福祉協議会  
飯能市総務部市民税課  
飯能市租税教育推進協議会  
飯能市友好都市交流委員会  
飯能市立図書館  
日高市教育委員会  
富士見市立難波田城資料館  
富士見市立水子貝塚資料館  
ふじみ野市教育委員会  
ふじみ野市立大井郷土資料館  
細川紙技術者協会  
本庄市教育委員会文化財保護課  
マルナカ  
宮代町教育委員会  
宮代町郷土資料館  
「ミュージアムビレッジ大宮公園」連絡協議会  
毛呂山町教育委員会  
吉田靖  
吉田優  
吉見町教育委員会

蕨市立歴史民俗資料館

東京都

板橋区教育委員会  
板橋区立郷土資料館  
青梅市郷土博物館  
大田区立郷土博物館  
学習院大学史料館  
学研教育出版  
葛飾区郷土と天文の博物館  
北区飛鳥山博物館  
清瀬市郷土博物館  
公益財団法人多摩市文化振興財団(パルテノン多摩)  
小平市中央図書館  
小平美香  
駒澤大学大学院史学会  
財団法人渋沢栄一記念財団  
渋沢史料館  
社会福祉法人二葉保育園  
杉並区立郷土博物館  
杉並区立郷土博物館分館  
台東区教育委員会生涯学習課  
大日本印刷株式会社  
たましん歴史・美術館歴史資料室  
中央区教育委員会  
調布市郷土博物館  
伝統技法研究会  
東京都江戸東京博物館  
東京都三多摩公立博物館協議会  
東京都赤十字血液センター  
東京富士美術館  
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所  
無形文化財遺産部  
豊島区  
豊島区立郷土資料館  
日本森林技術協会  
日本土地建物株式会社  
日本博物館協会  
練馬区立石神井公園ふるさと文化館  
野村不動産株式会社  
八王子市  
八王子市教育委員会  
日野市立新選組のふるさと歴史館  
府中市郷土の森博物館  
福生市教育委員会

文化環境研究所  
文京ふるさと歴史館  
町田市立自由民権資料館  
港区教育委員会  
港区立港郷土資料館  
武蔵大学学芸員過程  
武蔵文化財研究所  
明治大学学芸員養成課程  
明治大学学術・社会連携部博物館事務室  
明治大学校地内遺跡調査団  
明治大学博物館

その他

稲敷市立歴史民俗資料館  
岩宿博物館  
小山市立博物館  
各務原市歴史民俗資料館  
かすみがうら市郷土資料館  
神奈川大学日本常民文化研究所  
かみつけの里博物館  
「関帝廟と横浜華僑」編集委員会  
菊川市教育委員会  
群馬県立歴史博物館  
国立歴史民俗博物館  
寒川町  
寒川町史編集委員会  
下関市立考古博物館  
社会福祉法人筑和会  
高岡万葉歴史館  
高崎市観音塚考古資料館  
田原市博物館  
千葉県文書館  
津山郷土博物館  
流山市教育委員会  
流山市博物館  
野田市郷土博物館  
平塚市博物館  
富士吉田市教育委員会  
ベガ・テクニカル・コンストラクション(株)  
松代文化施設等管理事務所(真田宝物館)  
松戸市立博物館  
水戸市立博物館  
横浜開港資料館  
立命館大学国際平和ミュージアム  
歴史学と博物館のあり方を考える会

# 飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は

一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。  
2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験者

(平24条例17・一部改正)

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。  
(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。  
〔次のよう〕略

附 則(平成24年条例第7号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。  
(経過措置)
- 2 この条例の施行の際現に改正前の飯能市郷土館条例の規定により任命されている飯能市郷土館協議会の委員は、その任期満了の日までは、改正後の飯能市郷土館条例の規定により任命された委員とみなす。

# 飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、

利用の条件を変更し、又は利用の許可を取り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1・3・5・6号(次頁)、様式第2・4・7・8号(省略)



様式第1号 (第4条関係)

担 当 館 長

### 飯能市郷土館施設利用許可申請書

飯能市郷土館長 殿 平成 年 月 日

団 体 名 \_\_\_\_\_

住 所 \_\_\_\_\_

申請者 氏 名 \_\_\_\_\_

電 話 番 号 ( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり施設を利用したいので申請します。

利用責任者	住 所			
	氏 名		電話番号	( )
利用目的				
利用日時	平成 年			
	月 日 時 分	～	月 日 時 分	
利用施設	<input type="checkbox"/> 学習研修室	男 人	女 人	計 人
	<input type="checkbox"/> 特別展示室	展示品 ( ) 点		
利用備品	<input type="checkbox"/> スライド映写機	<input type="checkbox"/> ビデオ機器	<input type="checkbox"/> 展示パネル	
	<input type="checkbox"/> 展示ケース	<input type="checkbox"/> 展示台	<input type="checkbox"/> その他 ( )	
その他特記事項				

※ □内は、該当するところに✓印をつけてください。

様式第1号 施設利用許可申請書

様式第5号 (第7条関係)

担 当 館 長

### 飯能市郷土館資料寄贈申請書

第 号

飯能市郷土館長 殿 平成 年 月 日

(あて先) 飯能市郷土館長

住 所 \_\_\_\_\_

申請者 氏 名 \_\_\_\_\_

電 話 番 号 ( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり資料を寄贈したいので申請します。

記

資 料 名	数 量	備 考

様式第5号 資料寄贈申請書

様式第3号 (第5条関係)

担 当 館 長

### 飯能市郷土館資料利用許可申請書

(あて先) 飯能市郷土館長 年 月 日

団 体 名 \_\_\_\_\_

住 所 \_\_\_\_\_

申請者 氏 名 \_\_\_\_\_

電 話 番 号 ( ) \_\_\_\_\_

下記のとおり郷土館資料を利用したいので申請します。

利用目的				
利用期間	年 月 日	から	年 月 日	日まで
利用場所	館内・館外 ( )			
利用方法				
利用資料	分類番号	資 料 名	数 量	備 考
輸送方法	館外利用のみ ( )			
利用責任者				
特記事項				

返却日 受 領 者

/

様式第3号 資料利用許可申請書

様式第6号 (第7条関係)

担 当 館 長

### 飯能市郷土館資料寄託申請書

第 号

飯能市郷土館長 殿 年 月 日

(あて先) 飯能市郷土館長

住 所 \_\_\_\_\_

申請者 氏 名 \_\_\_\_\_

電 話 番 号 ( ) \_\_\_\_\_

次のとおり資料を寄託したいので申請します。

記

寄託期間	年 月 日から			年 月 日まで
	資 料 名	数 量	備 考	
寄託資料				

様式第6号 資料寄託申請書

# 職 員

平成26年度

館 長            柳戸 信吾  
主 幹(学芸員)   尾崎 泰弘  
主 査(学芸員)   村上 達哉  
学芸員           宮島 花陽乃

非常勤職員(資料整理・展示準備)  
石田 朋子  
入子美佐子  
非常勤職員(事務)            加藤 緑  
非常勤職員(施設管理)       野口 修

● 定点撮影プロジェクト会員(敬称略)

秋元重信    浅見彰夫    大野哲夫    加藤栄子  
加藤寛之    加藤実生    加藤安夫    加藤良夢  
金子仙太郎   鴨下栄太郎   菊池好太郎   久下文男  
関根貴志    田中 勉      中島滋雄    糠信 兌  
萩原昭平    吉田 豊  
(以上18名)

● 市民学芸員(敬称略)

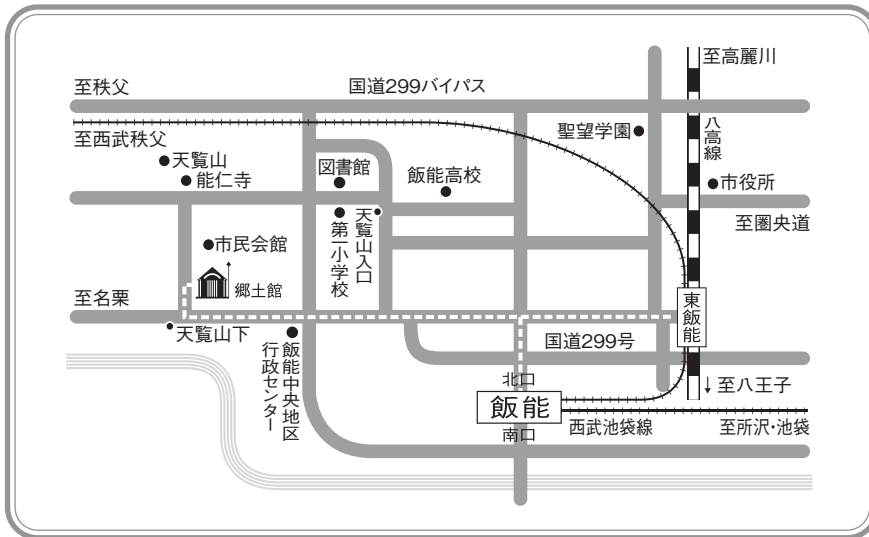
池田勝造    石原紀子    伊藤孝文    伊藤美津江  
宇津木繁生   大木有子    大野さく子   大野正一  
影山理恵    久津輪社    功力英雄    小林茂樹  
小林豊子    坂本利二    佐々木初江   佐藤浩一  
篠宮敏次    嶋崎季子    清水美芙子   須田正史  
関根秀俊    遠山光保    冨澤武男    仲館祐子  
中野和子    中山 功      双木幸三    西久保治子  
根立範子    長谷川志保子   原田恵子    福嶋信子  
松田早苗    柳戸淳吉    山川貞治    山岸忠義  
和島和恵    渡辺雅子  
(以上38名)

## 利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）  
年末年始（12月28日～1月4日）
- 入館料：無料

### 交通案内

- 最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
- 最寄駅：西武池袋線飯能駅下車 北口より徒歩約15分  
または、国際興業バス 北口ロータリー2番乗り場より名栗車庫行き・  
西武飯能日高行き等（名栗方面行き）「天覧山下」下車



## 飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール 第12号

平成28年3月31日発行

発行 飯能市郷土館  
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1  
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431  
E-mail: kyodokan@city.hanno.lg.jp  
<http://www.city.hanno.saitama.jp/0000001734.html>

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ  
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4  
TEL (042) 974-5260

- 1 判 型 A4判
  - 2 紙 質 (表紙) マットコート紙 菊判 111 kg  
(本文) クリームキンマリ 菊判 62.5 kg
  - 3 印刷方法 オフセット印刷1色刷り (本文) 66ページ
  - 4 印刷内容 モノクロ写真 48 枚
  - 5 スクリーン線数 175 線
  - 6 製 本 無線綴じ
- ※表紙絵：小島喜八郎氏



小さな発見 新たな出会い 大きな喜び  
 飯能市郷土館

埼玉県飯能市大字飯能 258-1  
TEL (042) 972-1414 FAX (042) 972-1431